

第九編 市制

第二款 市參事會及市吏員ノ職務權限及處務規程

第六十四條 市參事會ハ其市ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 市ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 市ノ權利ヲ保護シ市有財産ヲ管理スル事
- 五 市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ體責及十圓以下ノ過怠金トス
- 六 市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事
- 八 法律勅令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料手数料市税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
- 九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十五條 市參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員定員三分ノ一以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得

其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可シ同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記ス可シ

市參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十六條 第四十三條ノ規定ハ市參事會ニモ亦之ヲ適用ス但同條ノ規定ニ從ヒ市參事會正當ノ會議ヲ開クコトヲ得ザルトキハ市會之ニ代テ議決スルモノトス

第六十七條 市長ハ市政一切ノ事務ヲ指揮監督シ處務ノ滯滞ナキコトヲ務ム可シ

市長ハ市參事會ヲ招集シ之ヲ議長トナル市長故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

市長ハ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲シ及之ニ署名ス

第六十八條 急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會招集スルノ暇ナキトキハ市長ハ市參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第六十九條 市參事會ハ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理ス

市長ハ市會ノ同意ヲ得テ市參事會員ヲシテ市行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得

第九編 市制

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務並市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十條 市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十一條 書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條 區長及其代理者(第六十條)ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル市

行政事務ヲ補助執務スルモノトス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依

リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ管掌ス

前項ノ區長ハ市參事會ノ監督ヲ受ケ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

區收入役ハ市收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ區内ニ關スル市收入役ノ事務ヲ管掌ス(十三

一年法律第二十

第七十三條 委員ハ(第六十二條)市參事會ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理

シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市

條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十四條 市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケ

テ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政並府縣ノ行政ニシテ市屬ニスル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官職ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員一名ニ分掌セシムルコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ノ市長ハ監督官職ノ許可ヲ得テ本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得(同

上)

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ市ノ負擔トス

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ

受クルコトヲ得

實費辨償額及報酬額ハ市會之ヲ議決ス

第七十六條 市長助役其ノ他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ムルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若シ之ヲ許可ス

ヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス

市會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス府縣知事ニ於テ

之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

市長助役其他有給吏員ノ給料額ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得

第七十七條 市條例ノ規定ヲ以テ市長其他有給吏員ノ退職料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退職料、其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退職料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村公及共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退職料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退職料ト同額以上ナルトキハ舊退職料ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退職料、報酬及辨償ハ總テ市ノ負擔トス

第四章 市有財産ノ管理

第一款 市有財産及市税

第八十一條 市ハ其不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡市有財産ハ全市ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ其市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 市住民中特ニ市有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ市條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但

特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條、第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔スヘキモノトス

第八十六條 市會ハ市ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條、第八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 市有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條 市ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラレハ其支出ヲ負擔スルノ義務アリ

市ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)、並科料、過意金其他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ市税(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條 市ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 市税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

- 一 國稅府縣稅ノ附加稅
- 二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加税ハ直接ノ國税又ハ府縣税ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス特別稅
ハ附加税ノ外別ニ市限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料ヲ賦料(第八十九條特別稅)第九十條第一項第二
及從前ノ區町村費ニ關スル細則ハ市條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ料料一圓九十五錢以下ノ
罰則ヲ設クルコトヲ得

料料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ參事會之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三箇月以上市内ニ滞在スル者ハ其市稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徵收
ス可シ

第九十三條 市内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ市内ニ土地家屋ヲ所有シ又
ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納
ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及市ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ市外
ニ於クル所市ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可ヘ
キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ市稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村
ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ハ市稅ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ市稅ヲ免除ス

- 一 政府、府縣都市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及ヒ大藏大臣ノ
許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ市條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外市稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル市稅ノ
賦課ハ道テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ
賦課ス可シ

市内ノ一區ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所有
シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一區ノ所
有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第一百條 市稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收
ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ市長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲
シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一百一條 市公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課ス

ルコトヲ得但學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス
夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接市稅ヲ進率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ
夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場
合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ代フルコトヲ得

第二百二條 市ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條、市稅第九十條、夫役ニ代フル金圓(第一百一條)共
有物使用料及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ市參事會ハ之ヲ督促シ猶
之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ
手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得
其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第二百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル市稅ハ其所有者又ハ使用
者ニ賦課スルコトヲ得

第二百四條 市稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付三ヶ月以内ニ之ヲ市參事會ニ申立ツ可シ此期限
ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第二百五條 市稅ノ賦課及市ノ營造物、市有財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ市參事會之ヲ
裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出

訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第二百六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支
出若クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ其市住民ノ負
擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘ
シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ
定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラズ其年度内ノ收入ヲ以テ償
還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

第二款 市ノ歲入出豫算及決算

第二百七條 市參事會ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限り收入出豫
算表ヲ調製ス可シ但市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第二百八條 豫算表ハ會計年度前市會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要
領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ市會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ
第二百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得
定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫算費ヲ置キ市參事會ハ豫メ市會ノ認定ヲ受ケスシテ豫

算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル用途ニ充ツルコトヲ得ス
第百十條 市會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其騰寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫
算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ
至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ市參事會(第六十四條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得
ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ
據ラザルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ市
長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ市長又ハ其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ
要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事
會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルト
キハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

決算報告ヲ爲ストキハ第三十八條及第四十三條ノ例ニ準シ市參事會員故障アルモノトス

第五章 特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政

第百十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十
九條)ヲ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務

ノ爲メ區會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十四條 前條ニ記載スル事務ハ市ノ行政ニ關スル規則ニ依リ市參事會之ヲ管理ス可シ但區ノ出納
及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 市行政ノ監督

第百十五條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指
定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百十六條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會
ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理
由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セ
ントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ
意見ニ依リ其停止ノ爲メニ市ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百十七條 監督官廳ハ市行政ノ法律命令ニ背反セサルヤ其事務錯亂滯留セサルヤ否ヲ監視ス可シ監
督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ確實地ニ就テ
事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第一百八條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セザルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

市ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百十九條 凡市會又ハ市參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セザルトキハ府縣參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二十條 內務大臣ハ市會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選スヘキコトヲ命ス可シ但改選市會ノ集會スル迄ハ府縣參事會市會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二十一條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市條例ヲ設ケ或改正スル事

二 學費、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與買入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
前項第一ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニアラス

二 市特別稅或使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第二十三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ或改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)

三 市有不動產ノ賣却讓與或買入書入ヲ爲ス事

四 各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第二十四條 府縣知事ハ市長、助役、市參事會員、委員、區長其他市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス其過怠金ハ二十五圓以下トス

追テ市吏員ノ懲戒法ヲ設ケル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一 市參事會ノ懲戒處分(第六十四條第二項第五)ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決

ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 府縣知事ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル市吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情状重キ者又ハ行状ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務ヲサレサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ第六十三條懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受ルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市長ノ解職ニ係ル裁決ハ上奏シテ之ヲ執行ス

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

第二百五條 市吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ市ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第七章 附則

第二百二十六條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第二百二十七條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事ニ行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第二百二十八條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務并市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行スヘシ

第二百二十九條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第二百三十條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第二百三十一條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

告示ス

第二百三十二條 明治九年十月第三百十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年

七月第十七號布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月

第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二百五號布告其他此法律ニ牴觸

スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第二百三十三條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之方爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

第二百三十三條ニ左ノ一項ヲ追加ス

此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市、京都市、大阪市ノ區ニ關シ必要ナル一切ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(三十一年法律第二)

(十號ヲ以テ追加)

● 町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第九編 町村制

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ處理スルモノトス

第三條 凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ實力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラヌ町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決ス可シ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物並町村有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ(二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス

其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニアラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條 凡町村公民ノ利町ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラレハノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サルハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡滿六十歲以上ノ者

四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間負擔スヘキ町村費ノ八分一乃至四分一ヲ增課スルコトヲ得

第九編 町村制

九三

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 町村公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス
八年法律第七號ヲ以テ各項トモ改正

町村公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

町村公民タル者ニ限リ委任スヘキ職務ニ在ル者ニシテ
本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキハ自ラ解散スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキモ又同シ

前項ノ職務ニ在ル町村吏員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職務ヲ停止スルコトヲ得

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設ケルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得
町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設ケルコトヲ得

町村條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

- 一 人口千五百未満ノ町村ニ於テハ 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ 議員十八人
- 一 人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ 議員二十四人
- 一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員三十人

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラレ、者(第八條第三項第九條第二項)及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス(二十八法律第七號ヲ以テ條中改正)

凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラレ、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス
法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ
選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾

後ノ選舉人ヲ二級トス
一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ雖キトキハ年數ヲ以テシ年數ニモ依リ雖キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選舉ノ特別ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選舉權ヲ有ス
左ニ掲グル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
 - 二 有給ノ町村吏員
 - 三 檢察官及警察官吏
 - 四 神官僧侶及其他諸宗教師
 - 五 小學校教員
- 其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ケ可シ
「代言人」ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セララルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受ケルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ケ可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ雖キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
退任ノ議員ハ再選セララルコトヲ得

第十七條 議員中議員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上議員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之ヲ選舉ヲ行フヘシ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ
選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第三十七條第一項)ニ依

リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登録セラレサ
ル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス
本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲スト
キモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及ヒ選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分
チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若ク
ハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其ノ會場取締ニ任ス

第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於
テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差
出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封
緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ
過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非

サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨

立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ

證トス可シ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區區ヲ定メテ選舉

分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名

ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキモノハ年長者ヲ

取リ同數ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕トナシ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ期讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セシトスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十七條第一項)

町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡選舉會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ

第三十條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 小町村ニ於テハ郡選舉會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有ス

ル町村民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限處務規程

第三十二條 町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラレルノ事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲ケル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、町村稅及未役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
- 六 町村有不動産ノ賣買交換讓渡並質入書入ヲ爲ス事
- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負擔シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 九 町村有ノ財産及ヒ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事
- 十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類又計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理

議決ノ施行或收入支出ノ正否ヲ監査スル職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權利ノ有無選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權(第十二條第二項)及町村議員選舉ノ効力(第二十九條)ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利ノ有無並選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非レハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲スコシ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辯明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ召集ス可シ其召集會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員半數以上出席スルニ非サレバ議決スルコトヲ得ス(同一ノ議事ニ付召集再同ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス) (二十八法律第七號ヲ以テ三分二トアルヲ半數ニ改ム)

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決スヘシ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條

第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス
前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聴者ノ公然齟齬又ハ攘斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記録セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員三名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條 町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規則ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選任

第五十二條 町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村民中年齡滿三十歳以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼メルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣故アル者助役ノ職ニ在ルコトヲ得

舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但シ投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條 町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事

會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及ヒ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ

與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ

得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシ

ムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人ハ町村會ノ議決ヲ以

テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之

ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會(第百十四條)

ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉シ町村長又ハ其委任ヲ受

ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ選舉取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當ス

ル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラレハコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又

ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ乞フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事

五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ罰金及五圓以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手数料、町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ掌ス

一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ掌スルモルトキハ此限ニ在ラズ

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ

一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス
委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會

ニ出席シテ其委員長ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス
常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第三款 給料及給與

第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外職務取扱ノ爲メニ要スル員費ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得

賃費辦償額、報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村長之ヲ議決ス

第七十六條 有給町村長有給助役其他年給吏員及使了ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム
町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於
テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退職料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料、退職料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ
申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會
ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退職料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其
間之ヲ停止シ又ハ更ニ退職料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退職料ト同額以上ナルトキハ舊退職料
ハ之ヲ廢止ス

第八十條 給料、退職料、報酬及辦償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財産ノ管理

第一款 町村有財産及町村稅

第八十二條 町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限
ニアラス

第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ爲ニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有ス

ル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニヨリ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルト
キハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例
ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコ
トヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條、第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要
ナル費用ヲ負擔スヘキモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條、第八十四條)ヲ取上ケ又
其制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付スヘシ但臨時急
施ヲ要スルトキ及入札ノ價格其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此
限ニ在ラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セ
ラル、支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ
屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ不足アルトキハ町村稅(第九十條)及夫役現出(第一百一條)ヲ賦課徵
收スルコトヲ得

第九編 町村制

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手
數料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス特別
稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條特別稅(第九十條第一項第二
及從前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ
罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁
判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三箇月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初二週リ
徵收ス可シ

第九十三條 町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有
シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋ヲ營業若クハ其所得ニ對シテ賦課ス
ル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス
第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町

村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス
可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町
村ニ平分シ其一部分ニミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲グル所得ハ町村稅ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲グル物件ハ町村稅ヲ免除ス

- 一 政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可
ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免除スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村
稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ
賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地家屋ヲ所
有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ
所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第九編 町村制

第百條 町村税ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學費、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ進率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條町村稅第九十條夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條 町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第百七條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫算ヲ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其騰寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル)先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ終了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ニ可シ第六十二條第五項ノ場合ニ

於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第百十三條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ開キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設ケルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設ケルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設ケルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

第九編 町村制

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百二十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百二十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ

シ督監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ遊覽地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セザルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セザルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キ事ヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ク或改正スル事

二 學藝美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與買入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

- 二 町村特別税並使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
 - 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
 - 四 間接國稅ニ附加稅ヲ附加スル事
 - 五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
 - 三 町村有不動産ノ賣却讓與並賣入書入ヲ爲ス事
 - 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
 - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
 - 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
 - 九 第一百一條ノ進率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事
- 第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ隨實及過意金トス郡長ノ處分ニ係ル過意金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス
- 道ヲ町村吏員ノ懲戒法ヲ設ケル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務舉ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニアラス
 - 總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退職料ヲ受ケルノ權ヲ失フモノトス
 - 四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得
- 第二百二十九條 町村吏員及使テ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會

第九編 町村制

ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第百三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百三十二條 此法律ハ北海道沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ其第百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間稅稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ

告示ス

第百三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第百三十八條 明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公債共有物取扱土木起功規則明治十一年

七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書明治十七年五月第十四號布告區町村會法明治十七年五月第十五號布告明治十七年七月第二十三號布告明治十八年八月第二十五號布告其他此

法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十九條 內務大臣ハ此法律實行ノ責任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

●東京京都大阪三市ノ區ニ關スル件 (三十一年勅令第二百十號)

第一條 區ニ區長代理者ヲ置カス區長故障アルトキハ上席區書記之ヲ代理ス

第二條 區收入役故障アルトキハ市參事會ノ指名シタル區書記之ヲ代理ス

第三條 區長ニ於テ財產營造物ニ關スル事務其ノ他區ニ屬スル事務ヲ處理スルニ付テハ市ノ事務ニ關

スル規定ヲ準用ス

第四條 區長ハ法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外府知事ノ指揮命令ヲ承ケ若ハ委任ニ依リ區内ニ關スル

國及府ノ行政事務ヲ管理ス

第五條 區長ハ區書記其ノ他附屬員ヲ指揮監督ス

第六條 區收入役ノ職務及處務規程ニ關シテハ市收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 從來ノ區會ハ之ヲ存シ新ニ區會ヲ設クルトキハ市制第百十三條ノ例ニ依ル

區會ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他區ニ屬スル事務ヲ議決ス

區會議員ハ市ノ名譽職トス

第八條 區會議員ノ選舉權及被選舉權ノ有無選舉人名簿ノ正否並其ノ等級ノ當否代理ヲ以テ執行ス

ル選舉權及區會議員ノ選舉ノ効力並區會議員當選者ノ資格ノ有無ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ適

用シ其ノ他區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

區長ト區會トノ關係ニ付テハ市參事會ト市會トノ關係ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 區ノ監督ニ付テハ市ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條 區ノ名稱及區役所ノ位置ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ區會ニ於テ之ヲ議決シ區會ナキト

第九編 東京京都大阪三市ノ區ニ關スル件

第九編 市町村會議員選舉罰則

キハ市會之ヲ議決シ府知事ノ認可ヲ受クヘシ

附則

第十一條 本令ハ明治三十一年十月一日ヨリ施行ス

●市町村名及市役所村役場位置變更 (二十三年法律第七十七號)

第一條 市町村ノ名稱ヲ變更シ若ハ村ヲ町ト爲シ町ヲ村ト爲サントスルトキハ關係アル市町村會及郡
參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 市役所町村役場ノ位置ヲ變更スル市町村會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

●島嶼所屬名稱 (二十四年勅令第九十號)

東京府管下小笠原島南南西北緯二十四度零分ヨリ同二十五度三十分東經百四十一度零分ヨリ同百
四十一度三十分ノ間ニ散在スル三島嶼ヲ小笠原島ノ所屬トシ中央ニ在ルモノヲ硫黃島ト稱シ其南ニ
在ルモノヲ南硫黃島北ニ在ルモノヲ北硫黃島ト稱ス

●市町村會議員選舉罰則 (二十三年法律第三十九號)

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ニ處ス

議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以
テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル
者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食
ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊
料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス

其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑
法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ
處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拐引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ
手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上
二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 選舉人ヲ脅迫シ若クハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ
多量ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九編 市町村會議員罰則

第九編 市町村會議員選舉

第十條 選舉ノ際選舉ニ關スル吏員若クハ選舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ囂衆シテ第十條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ囂衆ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者或器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 選舉會場所在ノ郡市内ニ於テ選舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用井ル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被選人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被選人タルコトヲ得ス又ハ當選ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 或器又ハ兇器ヲ携帯シテ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ舉選人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當選人第二條乃至第六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當選ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各其條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員選舉ニモ適用ス

●行政又ハ司法區域ニ關スル市ノ所屬 (二十三年勅令第七十一號)

行政事務又ハ司法事務ニ關シ郡區ヲ以テ其區域ヲ定メタルモノニシテ市制ヲ施行シタル場合ニ於テハ特ニ市ノ屬スヘキ區域ヲ定メタルモノヲ除クノ外左ノ區別ニ隨ヒ其所屬ヲ定ムルモノトス

一 區ヲ市トナシタルモノニ付テハ市ノ區域ニ依ル但東京市京都市大阪市ニ在テハ仍區ノ區域ニ依ル

二 郡内ノ町村ヲ市トナシタルモノニ付テハ仍其從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

三 二郡以上ニ渉ル町村ヲ合シテ市トナシタルモノニ付テハ其人口ノ最モ大ナル部分ノ屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノトス

四 此勅令發布前ニ行ヒタル選舉ハ第三ノ規定ニ合ハサルモノアルモ其當選者ニ限り改選ヲ要セス區域變動ノ爲メ關係ノ郡ヨリ選舉スヘキ縣會議員ノ數ニ増減ヲ爲スヘキ必要アルトキハ本年ノ通常縣會ノ議決ヲ取り明治二十二年法律第七號第二條第二項ニ依リ處分スヘシ

●町村制ヲ施行セサル島嶼 (二十二年勅令第一號)

第九編 町村制ヲ施行セサル島嶼

第九編 町村制ヲ施行セサル島嶼

町村制第三百三十二條ニ依リ町村制ヲ施行セサル島嶼左ノ通指定ス

東京府管下

小笠原島 伊豆七島

長崎縣管下

對馬國

島根縣管下

隱岐國

鹿兒島縣管下

大隅國大島郡

大島 徳ノ島 喜界島 沖永良部島 與論島

薩摩國川邊郡

硫黃島 黒島 竹島 口之島 臥蛇島 平島 中之島 悪石島

諏訪ノ瀨島 寶島

●府縣會市町村及衆議員ノ議員資格ヲ有スル官吏ト有セサル官吏

(二十二年開令第十八號)

(第一編ニ登載セリ故ニ復書セス)

●市町村制及土地收用法ニ關スル訴訟取扱方 (二十三年法律第十號)

市町村制實施以前區長ノ處分ニ關シ市町村長ニ對スル行政訴訟並同制實施後ニ係ル市町村長ニ對

スル行政訴訟ハ從前郡區長ニ對スル事件ニ準シ始審裁判所ニ於テ取扱フヘシ但明治二十二年法律

第十六號ヲ以テ指定シタル場合ハ此限ニアラス

土地收用法第十五條第二項ニ該當スル訴訟事件ニシテ該法律施行前受理シタルモノハ從前ノ手續ニ

依リ取扱フヘシ

●北海道區制 (三十年勅令第五百十八號)

第一章 總則

第一款 區及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ北海道ニ於テ區ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條 區ハ郡ノ區域ニ屬セス別ニ行政區畫トス但シ法律命令ニ依リ特ニ區ノ區域ト符合セサル行政

區畫ヲ設クルコトヲ妨ケス

區ハ法八トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又

ハ將來法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條 區ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲シ又ハ郡内ノ町村ヲ變シテ區ト爲スコトヲ要スルトキハ「拓殖務

大臣」之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

前項ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ關係ナル區會及町村會ノ意見ヲ聞キ北海道廳長官之ヲ定ム

區ノ境界ヲ變更シ又ハ郡内ノ町村ヲ區ニ合併シ又ハ區ノ區域ヲ分割スルトキハ一級町村

制第三條ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ郡ノ境界ニ涉ルモノアルハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

區ノ境界明ナラサルコトアルトキハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第九編 北海道區制

二二九

第九編 北海道區制

三〇

第二款 區住民及其ノ權利義務

第四條 區内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ區住民トス
區住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ區有財產並區ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及區ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス
第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子三年以來(一)區ノ住民ト爲リ(二)區ノ負擔ヲ分任シ及(三)區内ニ於テ地租年額五十錢以上ヲ納メ若クハ直接國稅年額二十圓五十錢以上ヲ納メ若クハ耕地宅地三町歩以上ヲ所有スル者ハ區公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス
前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ區會ノ議決ヲ經テ北海道廳長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得

此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一月ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ
區公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ區會ノ議決ニ依リ六年以内區公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ區稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設ケルコトヲ得
第六條 區公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス
區公民タル者公權停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ區ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款 區條例及區規則

第七條 區ハ區住民ノ權利義務及區ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設ケルコトヲ得
區ハ區有財產及區ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設ケルコトヲ得

區條例及區規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス
區條例及區規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章 區行政

第一款 區吏員ノ組織及選任

第八條 區ニ區長ノ外書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス
書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム
書記ハ北海道廳長官之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ區長之ヲ任免ス

第九條 區ニ收入役一名ヲ置キ書記ノ中ニ就キ北海道廳長官之ヲ命ス
收入役ハ身元保證ノ爲金圓若クハ物件ヲ差出スルモノトシテ
第十條 區ハ處務便宜ノ爲區規則ヲ以テ區以區域ヲ數部ニ分テ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

第九編 北海道區制

三一

部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選舉權ヲ有スル區公民ノ中ニ就キ區長之ヲ任免ス

第十一條 區ハ區規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ハ區會議員若クハ區公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ區會議員及區公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ區長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ區會ニ於テ之ヲ選舉ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ニ關シテハ第四十六條ノ例ヲ適用ス

委員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ北海道廳長官ハ其ノ職ヲ停止スルコトヲ得

第二款 區長及區吏員ノ職務權限

第十二條 區長ハ區ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 區會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事
- 二 區有財産及區ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 區ノ權利ヲ保護スル事

四 區ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他區會ノ議決ニ依リ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

五 區吏員ヲ監督シ書記委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

六 區ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ區ヲ代表シ及區ノ名義ヲ以テ他廳若クハ一個人ト交渉スル事

八 法律命令若クハ區會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ區長ト委任シタル事務ヲ處理スル事

第十三條 區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ
前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ北海道廳長官ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ又前項取消ニ不服アル區會ハ北海道廳長官ニ訴願スルコトヲ得

前項北海道廳長官ノ決定若クハ裁決ニ不服アル區會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ付シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ北海道廳長官ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ其ノ北海道廳長官ノ決定ニ不服アル區會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得
本條ノ決定若クハ裁決ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害

フリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 區會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ北海道廳長官ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ北海道廳長官ノ指揮ヲ請フコトヲ得
前項北海道廳長官ノ處分ニ不服アル區會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得
本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 區會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ區長ハ北海道廳長官ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

區會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ區會ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

第十六條 第五十四條但書若クハ第五十六條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十七條 書記ハ區長ノ命令ヲ承ケ國ノ行政及區ノ行政ニ係ル庶務ニ従事ス

區長故障アルトキハ上席書記國ノ行政及區ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

區長ハ書記ヲシテ國ノ行政若クハ區ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條 收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十九條 部長及其ノ代理者ハ區長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付區長ノ事務ヲ補助執行ス

第二十條 委員ハ區長ノ監督ニ屬シ區有財産若クハ區ノ營造物ヲ管理シ其ノ他區行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第二十一條 區役所ノ處務規程ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他區吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ區長之ヲ定ム

區吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第二十二條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外區會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經テ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

區條例ヲ以テ書記其ノ他有給吏員ノ退職料及遺族扶助料ヲ設クルコトヲ得

第二十四條 有給吏員ノ給料旅費退職料遺族扶助料其ノ他第二十二條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第二十五條 給料旅費退職料遺族扶助料報酬辨償等ハ區ノ負擔トス

第三章 區會

第一款 組織及選舉

第二十六條 區會議員ハ區ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員ハ人口五萬未滿ノ區ニ於テハ二十四人以下トシ人口五萬以上ノ區ニ於テハ三十人以下トシ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第二十七條 區公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接區稅ヲ納ムル者其ノ額區公民ノ最多ク直接區稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ區住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ區住民ニ非サル者ト雖第五條ニ揭載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス
第二十八條 選舉人ハ分テ三級トス

選舉人中直接區稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス

一級選舉人ヲ除ク外直接區稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ開納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ區内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ雖ヤトキハ年長者ヲ以テシ年數ニモ依リ雖ヤトキハ區長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人每級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十九條 區域廣濶又ハ人口稠密ナル區ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級三級選舉ノ爲ニ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第三十條 特別ノ事情アル區ニ於テハ區條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ區内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ難キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘシ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第三十一條 選舉權ヲ有スル區公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス

- 一 北海道廳ノ官吏
- 二 區長及有給ノ區吏員
- 三 檢事及警察官吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
 父子兄弟タル緣放アル者ハ同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數
 ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ
 時ヲ與ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

區長トノ間父子兄弟タル緣放アル者ハ之ト同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣放
 アル者區長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣放アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第三十二條 區會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス

若各級ノ議員二分シ離キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ
 抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日 選舉ノ數日ニ亘ル 又ハ定期改選期日 選舉ノ數日ニ亘ル ヨリ起
 算シ曆ニ從テ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後シテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部

若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セラレルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日

ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セラレルコトヲ得

議員ニ關シテハ第三十二條第一項第三項第二十四條第二十五條ノ例ヲ適用ス

第三十三條 區會議員中議員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員
 三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ區長若クハ區會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補

闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十四條 區長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載
 セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ每選舉區

各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間區役所ニ於テ關係者ノ雜覽ニ供スヘシ若
 關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區長ハ其

ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政
 裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス
 區長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ

第九編 北海道區制

一四〇

選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十五條 選舉ヲ行フトキハ區長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並毎選舉區及毎級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十六條 選舉掛ハ名譽職トシ區長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ區長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クルトキハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十七條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スベシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

區住民ニ非スシテ第二十七條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十九條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

- 一 氏名ヲ記載セサルモノ
 - 二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
 - 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 - 五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此限ニ在ラス
 - 六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ
- 投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ投票ノ受理効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス
- 第四十條 區會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム
- 同時ニ補關議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補關ト爲シ投票

ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

第四十一條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ願末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ明瞭シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第四十二條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當區ヲ辭セシトスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ區長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ區長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補開選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉録ノ寫ヲ添ヘ之ヲ北海道廳長官ニ報告スヘシ

第四十三條 選舉人選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

北海道廳長官ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ

前項北海道廳長官ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四十四條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 選舉若クハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十六條 區會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

區長若クハ區會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ北海道廳長官ニ申立ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ北海道廳長官ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス

前項北海道廳長官ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十七條 區會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 一 區條例及區規則ヲ設定スル事
- 二 區費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ國ノ行政事務ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス

- 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
 - 四 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料、加入金、手数料、區稅、及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
 - 五 區有不動産ノ賣買交換讓受渡或賃入書入ヲ爲ス事
 - 六 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
 - 七 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 - 八 區有財産及區ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
 - 九 區吏員ノ身元保證ヲ徵シ或其ノ額ヲ定ムル事
 - 十 區ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
- 其ノ他區會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル
- 第四十八條 區會ハ區ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ區長ノ報告書ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行前收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得
- 區會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ區長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類並金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得
- 區會ハ區ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ區長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得
- 區會ハ區長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
- 第四十九條 議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス
- 第五十條 區會ハ區長ヲ以テ議長トス

區會ハ區會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選舉スヘシ

議長代理者ハ區會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退グトキハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選舉ハ總選舉ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第五十一條 議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ區會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選舉スルモ妨ナシ

第五十二條 區長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十三條 區會ハ會議ノ必要アル毎ニ區長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アルト認ムルトキモ亦同シ

招集會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クとも會議ノ三日前タルヘシ

區會ハ區長之ヲ開閉ス

第五十四條 區會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十五條 區會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十六條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ區會ノ承

諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十七條 區會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又區長ヨリ要求アリタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第五十八條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十九條 會議及傍聽ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以前出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六十條 前條ニ依リ「拓殖務大臣」ノ定ムル規則ノ外區會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設クルコトヲ得

區會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第六十一條 區會ノ書記ハ區吏員ノ中ニ就キ區長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隸屬シテ庶務ニ從事ス
議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シテ會議ノ顛末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス
議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ區長ニ報告スヘシ

第四章 區ノ財務

第一款 區有財産及區稅

第六十二條 區ハ不動産積立金穀等ハ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ區ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

區ハ區規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 區有財産ハ其ノ收益ヲ以テ區ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ區ノ直接ノ公用若クハ區住民ノ直接ノ共用ニ供シタル區有財産ニシテ其ノ費用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ牴觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 區有財産ヲ區住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ區規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十五條 區有財産ノ賣却貸與又ハ區ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得尖相價ハサルトキ又ハ區會ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 區ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 區ハ其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ 區ハ區有財産ヨリ生スル收入使用料手数料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第六十八條 區ハ區有財産若クハ區ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第六十九條 區稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ區ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス 特別稅ハ別ニ區限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキハ賦課スルモノトス

第七十條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別稅ニ關スル細則ハ區條例又使用料手数料ニ關スル細則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七十一條 區住民ニ非スト雖三箇月以上區内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初メ若クハ滞在ノ初メニ遡リ區稅ヲ納ムル義務アルモノトス

區住民ニ非ス又三箇月以上區内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖區内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ區内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ區内ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ

土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル區稅ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第七十二條 所得稅ノ附加稅ヲ賦課シ及區ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課スルトキ納稅義務者ノ區外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ區外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ區稅ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課稅スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ニ對シテハ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體ニ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ對シテハ第三百三條ニ掲クル期間中ハ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外區稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ 皇族ニ係ル區稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第七十四條 區有財産ヲ區住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財産ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十五條 區住民ノ一部ノミチ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

區ノ一部ノミチ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ區稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第七十六條 地租ノ附加稅ハ其ノ納期ヲ定メ納期場合ハ其ノ末日ニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵收スルモノトス但シ賃入ノ土地ニ對シテハ賃取主ヨリ徵收スルモノトス

地租ノ附加稅ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ、有租地ノ免租地若クハ無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地租目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得稅ノ附加稅ハ本稅ノ納期ニ於テ本稅ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス

本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加稅徵收ノ方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七十七條 區ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接區稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十八條 區ニ於テ徵收スル使用料加入金手数料區稅夫役現品ニ代フル金額其ノ他區ノ公法上ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ區長ハ國稅ノ滞納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促及手数料ニ關シテハ區規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者無資力ナル者アルトキハ區長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ區會ノ議決ニ依ル本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第七十九條 區稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ區長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

區有財産若クハ區ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ區長之ヲ決定ス其ノ區長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十條 區ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ天災事變等止ムヲ得サル支出若クハ區ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ區住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り區債ヲ起スコトヲ得

區債ヲ起スニ付區會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

區債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年年ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ常例トス

區債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ區經常支出往既三年起債ノ都度其ノ前平均額ノ二分ノ一ヲ超過セサルヲ限度トス

區ハ債券ヲ發行セサルヲ常例トス又如何ナル場合ニ於テモ無記名債券ヲ發行スルコトヲ得ス豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 區ノ歳入出豫算及決算

第八十一條 區長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ區會ノ議決ヲ經ヘシ但シ區ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ區會ニ提出スルトキハ區長ハ併セテ區ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第八十二條 區長ハ必要ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得第八十三條 豫算外ノ支出若クハ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ區會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得

豫備費ノ支出ハ後日區會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

區ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ區會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

區ハ區規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ區會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ北海道廳長官ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第八十四條 豫算ノ議決ヲ經タルトキハ區長ヨリ其ノ勝手ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其許可ヲ受クヘシ

收入役ハ區長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス區長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ナキガ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第八十五條 區ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査ヲ行ヒ又毎年少クトモ一回臨時検査ヲ行フヘシ

検査ハ區長若クハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ區會ノ選舉シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第八十六條 區ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ區長ニ提出スヘシ區長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

區長ハ決算報告書及之ニ關スル區會ノ議決ヲ北海道廳長官ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章 區内ノ一部ノ行政

第八十七條 區内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ區會ノ意見ヲ聞キ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第八十八條 前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ雖キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章 區行政ノ監督

第八十九條 區行政ハ第一次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第二次ニ於テ拓殖務大臣之ヲ監督ス

第九十條 此ノ勅令ニ規定スル異議、訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條 監督官廳ハ區行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ區行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

「拓殖務大臣」ハ北海道廳長官ノ區行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第九十二條 北海道廳長官ハ區ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項北海道廳長官ノ處分ニ不服アル區會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十三條 區會ノ解散ハ「拓殖務大臣」之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

北海道廳長官ハ十日以内ニ於テ區會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第九十四條 區條例ノ設定ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十五條 左ニ掲グル事件ハ「拓殖務大臣」及「大藏大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 區債ヲ起シ或借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第八十條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第九十六條 左ニ掲グル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 區規則ヲ設定スル事

二 使用料手数料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

四 學藝美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物件ノ買取交換讓渡質入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

第九編 北海道區制

- 五 區有不動產ノ賣却交換讓渡並質入書入ヲ爲ス事
- 六 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
- 七 各種ノ保證ヲ與フル事
- 八 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事
- 九 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 十 第七十四條第七十五條ニ依リ區住民ノ一部若クハ區内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
- 十一 第七十七條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事
- 第九十七條 北海道廳長官ハ書記部長委員其ノ他區吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其懲戒處分ハ罷責ニ十五圓以下ノ過怠金及解職トス
- 前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フモノトス
- 隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ本條解職ノ處分ニ不服アル者ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第七章 附則

- 第九十八條 此勅令施行ノ時期ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム
- 第九十九條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ區ト爲ス地ハ「拓殖務大臣」之ヲ指定ス
- 第一百條 此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選舉スルニ付區會ノ職務ハ區長之ヲ行フヘシ
- 第一百一條 此勅令ニ記載セル人口ハ最終人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク

- 第一百二條 現役及豫備役ノ屯田兵ニハ此ノ勅令ヲ施行セス
- 第一百三條 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田兵服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス
- 第一百四條 此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣之ヲ告示ス
- 第一百五條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

●北海道一級町村制 (三十二年勅令第五百十九號)

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

- 第一條 此ノ勅令ハ北海道ニ於テ一級町村ト爲ス地ニ行フモノトス
- 第二條 町村ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ從來法律命令ニ依リ町村ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス
- 第三條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム
- 町村ノ境界若クハ名稱ヲ變更シ又ハ町ヲ村ト爲シ村ヲ町ト爲スコトヲ要スルトキハ北海道廳長官之ヲ定ム但シ境界ノ變更ニシテ郡若クハ區ノ境界ニ涉ルモノハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クヘシ
- 本條ノ處分ニシテ郡ノ境界ニ涉ルモノアルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス
- 本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ關係アル區會及町村會ノ意見ヲ聞キ北海道廳長官之ヲ定ム
- 町村ノ境界明ナラサルコトアルトキハ北海道廳長官之ヲ定ム但シ郡若クハ區ノ境界ニ涉ル場合ニ於テハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クヘシ

第九編 北海道一級町村制

第九編 北海道一級町村制

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第四條 町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ町村住民トス

町村住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ町村有財産並町村ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子三年以來(一)町村ノ住民ト爲リ(二)町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)町村内ニ於テ地租年額四十錢以上ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納メ若クハ耕地宅地三町歩以上ヲ所有スル者ハ町村公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス

前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得
此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ
町村ノ負擔ヲ分任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項(二)ノ要件ヲ缺クト雖其ノ他ノ要件ヲ具スル者ハ町村公民トス

町村公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分ノ規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ町村會ノ議決ニ依リ六年以内町村公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ町村稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設ケルコトヲ得

第六條 町村公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス町村公民タル者公權停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタル

トキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ
陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第七條 町村ハ町村住民ノ權利義務及村町ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設ケルコトヲ得

町村ハ町村有財産及町村ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設ケルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設ケルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

町村條例及町村規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其公告式ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織及選任

第八條 町村ニ町村長書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス

町村長ハ每町村若クハ町村組合ニ一名トシ書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム

町村長ハ北海道廳長官之ヲ任免シ書記ハ郡長之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ町村長之ヲ任免ス

第九條 町村ニ收入役一名ヲ置キ書記ノ中ニ就キ郵便之ヲ命ス

第十條 町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村之事務ヲ執行スルニ必要ナル數部ニ分チ每部部長及其ノ代理者一名ヲ置

第九編 北海道一級町村制

クコトヲ得

部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選舉權ヲ有スル町村公民ノ中ニ就キ町村長之ヲ任免ス

第十二條 町村ハ町村規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會議員若クハ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テテ又ハ町村會議員及町村公民中

選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テ町村ハ長若クハ其ノ委任ヲ受

クタル書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ニ關シテハ第四十七條ノ例ヲ適用ス

委員ニシテ公權剝奪者ヲハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ郡長ハ其ノ職

ヲ停止スルコトヲ得

第二款 町村委員ノ職務權限

第十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事

二 町村有財産及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之ヲ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 町村ノ權利ヲ保護スル事

四 町村ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及

出納ヲ監視スル事

五 町村吏員ヲ監督シ書記委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓

以下ノ過怠金トス

六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ及町村ノ名義ヲ以テ他廳若クハ一個人ト交渉スル事

八 法律命令若クハ町村會ノ議決ニ依テ使用料加入金手数料町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第十三條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察官ノ職務

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政ニシテ町村ニ關スル事務但シ別ニ吏員ノ設アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第十四條 町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決其ノ權限ヲ越ヘ法律命令ニ背クト認ムルトキハ町

村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ收メサルトキハ町村長ヨリ郡長ニ申立テ其ノ決議ヲ請フヘシ又前

項取消ニ不服アル町村會ハ郡長ニ訴願スルコトヲ得

前項郡長ノ決定若クハ裁決ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ヨリ郡長ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ其ノ郡長ノ決定ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ決定若クハ裁決ハ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 町村會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ郡長ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項郡長ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 町村會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ町村長ハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決ス

ヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依リ第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第十七條 第五十六條但書若クハ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十八條 書記ハ町村長ノ命令ヲ承ケ國ノ行政及町村ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス

町村長故障アルトキハ上席書記國ノ行政及町村ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

町村長ハ書記ヲシテ國ノ行政若クハ町村ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十九條 收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第二十條 部長及其代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス

第二十一條 委員ハ町村長ノ監督ニ屬シ町村有財産若クハ町村ノ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依ル事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第二十二條 町村役場及町村吏員ノ職務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第二十三條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第九編 北海道一級町村制

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外町村會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルヲ得
實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 町村長及書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ
給料額旅費額及其收給方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

町村條例ヲ以テ右給吏員ノ退職料及遺族扶助料ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 有給吏員ノ給料旅費退職料遺族扶助料其ノ他第二十三條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ郡長
ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル
者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第二十六條 給料旅費退職料遺族扶助料報酬辨償等ハ町村ノ負擔トス但シ町村長ノ給料及旅費ハ國庫

ヨリ支給ス

第三章 町村會

第一款 組織及選舉

第二十七條 町村會議員ハ町村ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員左ノ如シ

一人口千五百未満ノ町村ニ於テハ

議員八人

一人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ

議員十二人

一人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ

議員十六人

一人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ

議員二十人

議員二十四人

一人口二萬以上ノ町村ニ於テハ

前項ノ定員ハ町村規則ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第二十八條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ

限ニ在ラス

直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク直接町村稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ
町村住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ町村住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備
スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此
ノ限ニ在ラス

第二十九條 選舉人ハ分テ二級トス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾
餘ノ選舉人ヲ二級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルト
キハ町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テ
シ年數ニモ依リ難キトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

第三十條 區域廣濶又ハ人口稠密ナル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クル
コトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲ニ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

第九編 北海道一級町村制

分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第三十一條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得
選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之
ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ町村内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接町村税ノ
賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若ク賦課額ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ税額ノ
最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ
滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ税額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ
構ヘ若クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ
各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ雖キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員
數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第三十二條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス
左ニ掲グル者ハ被選舉權ヲ有セス

- 一 北海道廳及所屬郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏
- 三 檢察及警察官

四 神官僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若ク同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ
數ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其
ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若ク議員トノ間ニ其ノ
緣故アル者町村長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第三十三條 町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若ク各級
ノ議員二分シ雖キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ
以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日 選舉ノ數日ニ亙ル 又ハ定期改選日 選舉ノ數日ニ亙ルヨリ起算
シ曆ニ從フ但總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若ク
ハ全部ノ議員其期日後ニ選舉セラレル事アルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選日ヨリ起算ス
退職ノ議員ハ再選セラレルコトヲ得

議員ニ關シテハ第二十三條第一項第三項第二十五條第二十六條ノ例ヲ適用ス

第三十四條 町村會議員中關員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定
員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ町村長若クハ町村會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前

ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十五條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ

記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ毎選舉區各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス

町村長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十六條 選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並毎選舉區及每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十七條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若シクハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設ケルトキハ各別ニ選舉掛ヲ設ケヘシ

第三十八條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

町村住民ニ非スシテ第二十八條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第四十條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ

無効トス

- 一 氏名ヲ記載セサルモノ
- 二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス
- 六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ川紙ヲ川井サルモノ

投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタモノヲ順次ニ棄却スヘシ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第四十一條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第四十二條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第四十三條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スルキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立サル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十四條 選舉入選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

郡長ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ

前項郡長ノ處分ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四十五條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トナスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 選舉若クハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十七條 町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス町村長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ郡長ニ申出ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ郡長ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス

前項郡長ノ決定ニ不服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第四十八條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第三款 職務權限及處務規程

第四十九條 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 一 町村條例及町村規則ヲ設定スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ國ノ行政事務ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 四 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料町村税及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル

事

五 町村不動産ノ賣買交換讓受讓渡買入書入ヲ爲ス事

六 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

七 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

八 町村有財産及町村ノ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

九 町村吏員ノ身元保證ヲ徵シ並其ノ額ヲ定ムル事

十 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第五十條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告書ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ前項ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立

會ノ上關係書類並金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

町村會ハ町村長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第五十一條 議員タル者ニ選舉人ノ指示若クハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第五十二條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス

町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選舉スヘシ

議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其

ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選舉ハ總選舉ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

第五十三條 議長故障アルトキハ其ノ代理者之二代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トナスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選舉スルモ妨ナシ

第五十四條 町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クとも會議ハ三日前タルヘシ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第五十六條 町村會ハ議員定員ノ半数以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ズ但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半数ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條 町村會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十八條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十九條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求アリタルトキハ傍聽ヲ禁スヘシ

第六十條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第六十一條 會議及傍聽ノ紀律並取締ニ關スル規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設ケルコトヲ得

第六十二條 前條ニ依リ「拓殖務大臣」ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聽規則ヲ設ケヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規程ヲ設ケルコトヲ得

第六十三條 町村會ノ書記ハ町村吏員ノ中ニ就キ町村長之ヲ命ス

書記ハ議長ニ隸屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シテ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章 町村ノ財務

第一款 町村有財産及町村稅

第六十四條 町村ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

第九編 北海道一級町村制

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ額ヲ定メテ基本財産ヲ蓄積セシムルコトヲ得

臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十五條 町村有財産ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スル爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接ノ公用若クハ町村住民ノ直接ノ共用ニ供シタル町村有財産ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ抵觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 町村有財産ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則ノ規程ニ依ルヘシ

前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徵收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七十六條 町村有財産ノ賣却買與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時ニ急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附者クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十九條 町村ハ國庫ヨリ支給スルモノヲ除ク外其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セララルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ町村有財産ヨリ生スル收入使用料手数料過怠金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第七十條 町村ハ町村有財産若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第七十一條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス
特別稅ハ別ニ町村限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキハ賦課スルモノトス

第七十二條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別稅ニ關スル細則ハ町村條例又使用料手数料ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初若クハ滞在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ス又三箇月以下町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖町村内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務アル

モノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス
 第七十四條 所得税ノ附加税ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課スルトキハ納税義務者ノ町村
 外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得
 ハ之ヲ控除スヘキモノトス
 數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村
 ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課税スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ
 此ノ限ニ在ラス

第七十五條 所得税法第三條ニ掲ケル所得ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス
 國區町村其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體
 ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス
 社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ
 用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ
 得ス
 國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス
 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ對シテハ第一百十一條ニ掲
 ケル期間中ハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス
 本條ノ外町村税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ
 皇族ニ係ル町村税ノ賦課ハ道テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第七十六條 町村有財産ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル
 者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財産ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得
 第七十七條 町村住民ノ一部ノミチ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコト
 ヲ得
 町村ノ一部ノミチ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部
 内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部
 内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ
 收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第七十八條 地租ノ附加税ハ其ノ納期ヲ定メ納期場合ハ其ノ末日ニ於ケル土地臺帳ノ記名者ヨリ徵
 收スルモノトス但シ賃入ノ土地ニ對シテハ賃取主ヨリ徵收スルモノトス
 地租ノ附加税ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ有租地ノ免租地若クハ
 無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地類地目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ
 月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス
 所得税ノ附加税ハ本税ノ納期ニ於テ本税ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス
 本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加税徵收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
 本條ノ例ニ依リ難キ場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ別段ノ規程ヲ設ケルコトヲ得
 第七十九條 町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納税義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工
 ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役
現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十條 町村ニ於テ徵收スル使用料加入金手数料町村稅夫役現品ニ代フル金額其ノ他町村ノ公法
上ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分ス
ヘシ其ノ督促及手数料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ
得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第八十一條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ納稅ノ告知ヲ
受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

町村有財産若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得
本條ノ異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不
服アル者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得

本條ノ異議訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第八十二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムテ得サル支出若クハ町村ノ永久ノ利益
ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ町村住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り

町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ
經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキ又ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ニ關シ變更ヲ要スルト
キモ亦同シ

町村債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年年ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ
還了スルヲ以テ常例トス

町村債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ町村經常支出既往三年起債ノ都度其ノ前平均額ノ三分ノ一ヲ超過
セサルヲ限度トス

町村ハ債券ヲ發行スルコトヲ得ス
豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘ
キモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第八十三條 町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ
年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第八十四條 町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコト
ヲ得

第八十五條 豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設ケヘシ但シ町村會ノ否決シ
第九編 北海道一級町村制

タル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得
町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設ケルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第八十六條 豫算ノ議決ヲ經タルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ町村長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス町村長ノ命令ヲ受ケルモ其ノ支出豫算中豫定ナキカ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第八十七條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査ヲ行ヒ又毎年少クトモ一回臨時検査ヲ行フヘシ

検査ハ町村長若クハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ町村會ノ選舉シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス
第八十八條 町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ

町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要

領ヲ公告スヘシ

第五章 町村内一部ノ行政

第八十九條 町村内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設ケルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第九十條 前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ雖キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章 町村組合

第九十一條 郡長ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設ケルコトヲ得

郡長ハ前項ノ許可ヲ受ケルニハ組合會議ノ組織費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併テ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第九十二條 町村組合ニ就テハ町村ニ關スル規程ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ前條ノ組合規程ニ之ヲ規定スヘシ

第九十三條 町村組合ハ郡長ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス
第九十四條 一級町村ト二級町村トノ組合ニ關シテモ亦本章ノ例ヲ適用ス

第七章 町村行政ノ監督

第九編 北海道一級町村制

第九十五條 町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ於テ拓殖務大臣之ヲ監督ス

第九十六條 此ノ勅令ニ規定スル異議訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之ヲ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スルトヲ得

第九十八條 郡長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ
前項郡長ノ處分ニ不服アル町村會ハ北海道廳長官ニ訴願シ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル町村會ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得

本條ハ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十九條 町村會ノ解散ハ「拓殖務大臣」之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ郡長ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第一百條 町村條例ノ設定ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第一百一條 左ニ掲グル事件ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村債ヲ起シ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事
但シ第八十二條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別税ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 直接國税二分ノ一ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事

四 間接國税ノ附加税ヲ賦課スル事

五 國庫ヨリ直接ニ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

第一百二條 左ニ掲グル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村規則ヲ設定スル事

二 使用料手数料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

四 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡賃入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事

七 均一ノ税率ニ依ラスシテ國税ノ附加税ヲ賦課スル事

八 第七十六條第七十七條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第一百三條 左ニ掲グル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
一 町村有不動産ノ賣却交換讓渡賃入書入ヲ爲ス事

第九編 北海道一級町村制

二 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
三 第七十九條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事
第百四條 北海道廳長官郡長ハ町村長書記部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ罰責二十五圓以下ノ過怠金及解職トシ郡長ノ懲戒處分ハ罰責及十圓以下ノ過怠金トス
前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フモノトス
隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ本條解職ノ處分ニ不服アル者ハ「拓殖務大臣」ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第八章 附則

第百五條 此ノ勅令施行時期ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム
第百六條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ一級町村ト爲ス地ハ「拓殖務大臣」之ヲ指定ス
第百七條 此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選舉スルニ付町村會ノ職務ハ町村長之ヲ行フヘシ
第百八條 此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官廳ノ職務權限等ニ關シ「拓殖務大臣」ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得
第百九條 此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク
第百十條 現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス
第百十一條 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田

兵服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第百十二條 此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣之ヲ告示ス
第百十三條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

●北海道一級町村制 三十年勅令第百六十號

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ北海道ニ於テ二級町村ト爲ス地ニ行フモノトス
第二條 町村ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又ハ將來法律命令ニ依リ町村ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス
第三條 一級町村制第三條ハ二級町村ニ關シ之ヲ適用ス

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第四條 町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ町村住民トス
町村住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ町村有財産並町村ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ有スルモノトス但シ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス
第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子三年以來(一)町村ノ住民ト爲リ(二)町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)町村内ニ於テ地租年額三十錢以上ヲ納メ若クハ直接國稅年額一圓五十錢以上ヲ納メ若クハ耕地宅地三町歩以上ヲ所有シ若クハ各納稅人ノ直接町村稅平均納額以上ノ直接町村稅ヲ納ムル者ハ

第九編 北海道一級町村制

町村民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後三年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス
前項三年ノ制限ハ場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得
此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歳以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ
町村ノ負擔ヲ兼任セシムルコトナキ町村ニ於テハ第一項(二)ノ要件ヲ缺クト雖其ノ他ノ要件ヲ具備
スル者ハ町村民トス

町村民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ
三年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セザル者ニ對スル處分ノ規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其
規則ニハ町村會ノ議決ニ依リ六年以内公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘ
キ町村稅ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條 町村民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス
町村民タル者公權停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告
ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セ
ラレタルトキハ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ
陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若
クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第七條 町村ハ町村住民ノ權利義務及町村ノ事務ニ關シ此ノ勅令中明文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設
クルコトヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村有財產及町村ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許
シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ就テハ規則ヲ設クルコトヲ得
町村條例及町村規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス
町村條例及町村規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ町村規則ヲ以テ之ヲ定ム
ハシ

第二章 町村行政

第一款 町官吏員ノ組織及任用

第八條 町村ニ町村長書記其ノ他必要ノ附屬員ヲ置キ有給吏員トス

町村長ハ每町村若クハ町村組合ニ一名トシ書記ノ定員ハ北海道廳長官之ヲ定ム

町村長ハ北海道廳長官之ヲ任免シ書記ハ郡長之ヲ任免シ其ノ他ノ附屬員ハ町村長之ヲ任免ス

第九條 町村ハ處務便宜ノ爲町村規則ヲ以テ町村ノ區域ヲ數部ニ分チ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ
置クコトヲ得
部長及其代理者ハ名譽職トス
部長及其ノ代理者ハ選舉權ヲ有スル町村民ノ中ニ就キ町村長之ヲ任免ス

第十條 町村ハ町村規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會議員若クハ町村民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ町村會議員及町村民中
選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ町村長若クハ其ノ委任ヲ受

第九編 北海道二級町村制

ケタル書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ郡長之ヲ任免ス

委員ノ組織等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

第二款 町村吏員ノ職務權限

第十一條 町村長ハ町村ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事
- 二 町村有財産及町村ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ權利ヲ保護スル事
- 四 町村ノ歳入ヲ管理シ町村ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ處理スル事
- 五 町村吏員ヲ監督シ書記委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス
- 六 町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事
- 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ及町村ノ名義ヲ以テ他屬若クハ一個人ト交渉スル事
- 八 法律命令若クハ町村會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スル事
- 九 町村條例及町村規則ヲ設ケル事
- 十 町村造營物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十一 其他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第十二條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一 司法警察官ノ職務

二 浦役場ノ事務

三 國ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但シ別ニ吏員ノ設アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第十三條 町村長若クハ監督官廳ニ於テ町村會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ

害アリト認ムルトキ又ハ町村會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ町村長若クハ監督官廳

ニ於テ町村會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ

又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ニ申立テ

指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ郡長ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ北海道廳長官ノ認許ヲ得テ指揮スヘキモノトス

第十四條 町村會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ町村長ハ郡長ニ申立テ指揮ヲ請ヒ其ノ議決ス

ヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依リ第一項ノ處分

ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第十五條 第五十二條但書若クハ第五十四條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ

前條ノ例ニ依ル

第十六條 書記ハ町村長ノ命令ヲ承ケ國ノ行政及町村ノ行政ニ係ル庶務ニ從事ス

町村長故障アルトキハ上席書記國ノ行政及町村ノ行政ニ付其職務ヲ代理ス

町村長ハ書記ヲシテ國ノ行政者クハ町村ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十七條 部長及其ノ代理者ハ町村長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及町村ノ行政ニ付町村長ノ事務ヲ補助執行ス

第十八條 委員ハ町村長ノ監督ニ屬シ町村有財産若クハ町村ノ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十九條 町村役場及町村吏員ノ處務規程ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

町村吏員ノ服務紀律ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第三章 給料及給與

第二十條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外町村會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

實費辨償額報酬及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十一條 町村長及書記ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ北海道廳長官之ヲ定メ其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法町村規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十二條 給料旅費報酬償等ハ町村ノ負擔トス但シ町村長ノ給料及旅費ハ國庫ヨリ支給ス

第三章 町村會

第一款 組織及選舉

第二十三條 町村會議員ハ町村ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス定員左ノ如シ

一人口千五百未満ノ町村ニ於テハ

議員八人

一人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ

議員十二人

一人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ

議員十六人

一人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ

議員二十人

一人口二萬以上ノ町村ニ於テハ

議員二十四人

前項ノ定員ハ町村規則ヲ以テ之ヲ減スルコトヲ得

第二十四條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク直接町村稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ町村住民ニ非サル者又ハ三年以來ノ町村住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 選舉人ハ分テ二級トス

選舉人中直接町村稅ノ多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ

選舉人ヲ二級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルト

キハ町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住居ノ年數ニ依リ雖キトキハ年長者ヲ以テシ年齢ニモ依リ雖キトキハ町村長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人毎級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十六條 區域廣闊又ハ人口稠密ナル町村ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ區畫ヲ定メ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲ニ設クルモ妨ナシ

分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開クヘシ其ノ他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十七條 特別ノ事情アル選舉ニ於テハ選舉條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ選舉人ノ員數ニ準シ前項ノ條例ニ之ヲ規定スヘシ

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ町村内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在地ニ依テ之ヲ定ム若數選舉區ニ亘リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ税額ノ最モ多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接町村税ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ税額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亘リ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依リテ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數各級ニ等分シ雖キトキハ各選舉區各級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ第一項ノ條例ニ規定スヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十八條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ被選舉權ヲ有セス

- 一 北海道廳及所屬郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢事及警察官吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

父子兄弟タル緣故アルモノハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其ノ多キ者ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

選舉長ノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第二十九條 町村會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員二分シ雖キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日

選舉ノ數日ニ亘ル

又ハ定期改選期日

選舉ノ數日ニ亘ルヨリ起

第九編 北海道二級町村制

算シ曆ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セララルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セララルコトヲ得

議員ニ關シテハ第二十條第一項第三項第二十二條ノ例ヲ適用ス

第三十條 町村會議員中關員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ町村長若クハ町村會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十一條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前四十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉ヲ設クルトキハ每選舉各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ十四日間町村役場ニ於テ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

町村長ハ前項ノ申立ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スト認ムルトキハ選舉ノ日ヨリ七日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十二條 選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉ノ場所日時並選舉區及

每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ多數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十三條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ閉閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉分會若クハ選舉區ヲ設クル

トキハ各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十四條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

町村住民ニ非スシテ第二十四條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十六條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ

無効トス

- 一 氏名ヲ記載セサルモノ
 - 二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ
 - 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
 - 五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ
- 投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ
投票ノ受理効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス
- 第三十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム
同時ニ補闕議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ投票ノ數相同キトキハ掛長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム
- 第三十八條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ願末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ
投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第三十九條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セントスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數名若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ

定期改選ト補闕選舉トナ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十條 郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ但シ北海道廳長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四十一條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條 選舉若クハ當選無効ト爲リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 町村會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス選舉長若クハ町村會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ郡長ニ申立ツヘシ

第一項資格要件ノ有無ハ郡長ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス但シ北海道廳長官ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四十四條 特別ノ事情アル場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ選舉ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第四十五條 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

一 歳入出豫算ヲ定ムル事
二 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料町村税及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

三 町村有不動産ノ賣買交換讓渡並買入書入ヲ爲ス事

四 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六 町村有財産ノ管理方法ヲ定ムル事

七 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他町村會ノ職權ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 町村會ハ町村長ノ報告書ヲ請求シテ町村有財産ノ管理或收入支出ノ正否ヲ検査スルコトヲ得

町村會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ町村長若クハ其ノ指命シタル吏員立會ノ上關係書類並金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得

町村會ハ町村長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第四十七條 議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第四十八條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス

町村會ハ町村會議員中ヨリ議長代理者一名ヲ選舉スヘシ

議長代理者ハ町村會議員ノ定期改選期日ノ前日マテ在職スルモノトス但シ議員ノ職ヲ退クトキハ其

ノ職ヲ失フモノトス

第二項ノ選舉ハ總選舉ヲ行ヒタル場合ハ初會ニ於テ其ノ他ハ前任者退職當時ノ會議又ハ退職後ノ初

會ニ於テ之ヲ行フ

第四十九條 議長故障アルトキハ其ノ代理者之ニ代リ議長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ假議長トスヘシ但シ臨時ニ假議長ヲ選舉スルモ妨ナシ

第五十條 町村長及其ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十一條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ町村長會期ヲ定メテ之ヲ招集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クとも會議ノ三日前タルヘシ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第五十二條 町村會ハ議員定員ノ半数以上出席スルニ非ラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員過半数ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 町村會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ就テハ町村會ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十五條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルコトヲ得又町村長ヨリ要求アリタルトキハ傍聴ヲ禁スヘシ

第五十六條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十七條 會議及傍聴ノ紀律竝取締ニ關スル規則ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十八條 前條ニ依リ「拓殖務大臣」ノ定ムル規則ノ外町村會ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聴規則ヲ設クヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得又町村會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第五十九條 町村會ノ書記ハ町村吏員中ニ就キ町村長之ヲ命ス書記ハ議長ニ隸屬シテ庶務ニ從事ス

議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シテ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第四章 町村ノ財務

第一款 町村有財産及町村税

第六十條 町村ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

北海道廳長官ハ町村ノ經濟ノ狀況ニ依リ必要ト認ルキハ額ヲ定メテ基本財産ヲ蓄積セシムルヲ得臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ町村規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 町村有財産ハ其ノ收益ヲ以テ町村ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ町村ノ直接ノ公川若クハ町村住民直接ノ共用ニ供シタル町村有財産ニシテ其ノ公川若クハ共用ニ妨アルトキ及特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ抵觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 町村有財産ヲ町村住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ共用ニ供スルニハ町村規則規程ニ依ルヘシ前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徴收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 町村有財産ノ賣却貸與又ハ町村ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ承諾ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 町村ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ國區町村其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十五條 町村ハ國庫ヨリ支給スルモノヲ除ク外其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルト支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ町村有財産ヨリ生スル收入使用料手数料過意金其ノ他法律命令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第六十六條 町村ハ町村有財産若クハ町村ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十七條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ
一 國税ノ附加

二 直接若クハ間接ノ特別税
附加税ハ直接ノ國税ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ町村ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス

特別税ハ別ニ町村ニ限リ税目ヲ設ケ課税スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス

第六十八條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別税使用料手数料ニ關スル細則ハ町村規則ヲ以テ之ニ規定スヘシ

第六十九條 町村住民ニ非スト雖三箇月以上町村内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル初若クハ滞存ノ初ニ遡リ町村税ヲ納ムル義務アルモノトス

町村住民ニ非ス又ハ三箇月以上町内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖町内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ町村内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ土地家屋營業者クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 所得税ノ附加税ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得税ヲ賦課スルトキハ納税義務者ノ町村外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其ノ所得ヲ各市區町村ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課税スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 所得税法第三條ニ掲グル所得ニ對シテハ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

國區町村其ノ他公共團體ノ直接ニ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區町村其ノ他公共團體ニ町村税ヲ賦課スルコトヲ得ス

第九編 北海道二級町村制

國有ノ山林若クハ荒蕪ノ地ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ對シテハ第四百四條ニ掲ク
ル期間中ハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ
皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ道テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル

第七十二條 町村有財産ヲ町村住民ノ一部ノ直接ノ共用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル
者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財産ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十三條 町村住民ノ一部ノミナリスル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコト
ヲ得
町村ノ一部ノミナリスル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部
内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部
内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ
收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第七十四條 地租ノ附加稅ハ其ノ納期ヲ定メ納期場合ハ其ノ末日
收スルモノトス但シ賃入ノ土地ニ對シテハ賃取主ヨリ徵收スルモノトス
地租ノ附加稅ハ免租地若クハ無租地ノ有租地ト爲リタルトキハ其ノ翌月ヨリ有租地ノ免租地若クハ
無租地ト爲リタルトキハ其ノ前月マテ又地租目ノ變換等ニ依リ地租ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ
月ヨリ月割ヲ以テ徵收スルモノトス

所得稅ノ附加稅ハ本稅ノ納期ニ於テ本稅ヲ納ムル義務アル者ヨリ徵收スルモノトス
本條ニ規定スルモノヲ除ク外附加稅徵收ノ方法ハ町村規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第七十五條 町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工
ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接町村稅ヲ進奉ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役
現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十六條 町村ニ於テ徵收スル使用料加入金手数料町村稅夫役現品ニ代フル金額其ノ他町村ノ公法
上ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ處分ス
ヘシ其ノ督促及手数料ニ關シテハ町村規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設ケルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ
得其ノ年度ヲ越セル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

第七十七條 町村稅ノ徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ就テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス
受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ町村長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

町村有財産若クハ町村ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得
本條異議ハ町村長之ヲ決定ス其ノ町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其ノ郡長ノ裁決ニ不服

第九編 北海道二級町村制

第九編 北海道二級町村制
ア海者ハ北海道廳長官ニ訴願シ其ノ北海道廳長官ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルヲ得

本條ノ異議訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス
第七十八條 町村ハ此ノ勅令ヲ行フ前ニ起シタル負債ヲ償還スル爲ニ必要ナル場合ニ限り町村債ヲ起スコトヲ得其ノ他一級町村制第八十二條第二項乃至第五項ヲ適用ス

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第七十九條 町村長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ但シ町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ町村ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第八十條 町村長ハ必要ノ場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲スコトヲ得

第八十一條 豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ町村會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日町村會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

町村ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

町村ハ町村規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

豫算ハ町村會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第八十二條 町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス

決算ハ出納閉鎖期限後初回ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

町村長ハ決算報告書及之ニ關スル町村會ノ議決ヲ郡長ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ要領ヲ公告スヘシ

第五章 町村内一部ノ行政

第八十三條 町村内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ就キ其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ北海道廳長官ハ町村會ノ意見ヲ聞キ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコトヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第八十四條 前條ニ記載スル事務ニ就キ此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ得テ北海道廳長官之ヲ定ム

第六章 町村組合

第八十五條 郡長ハ公益上必要ト認ムル場合ニ於テハ數町村ノ事務ヲ共同處理セシムル爲北海道廳長官ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得

第九編 北海道二級町村制

第九編 北海道二級町村制

郡長ハ前項ノ許可ヲ受クルニハ組合會議ノ組織費用ノ支辨方法ニ關シ組合規程ヲ設ケ併テ北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

第八十六條 町村組合ニ就テハ町村ニ關スル規程ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項其ノ他町村組合ニ關シ特ニ必要ナル事項ハ前條ノ組合規程ニ之ヲ規定スヘシ

第八十七條 町村組合ハ郡長ニ於テ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解除スルコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第八十八條 町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ北海道廳長官之ヲ監督シ第三次ニ於テ「拓殖務大臣」之ヲ監督ス

第八十九條 此ノ勅令ニ規定スル異議訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヤ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ町村行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第九十一條 郡長ハ町村ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項ノ處分ハ北海道廳長官許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十二條 町村會ノ解散ハ「拓殖務大臣」之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ郡長ハ十日以内ニ於テ町村會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第九十三條 町村條例ノ設定ハ「拓殖務大臣」ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十四條 左ニ掲グル事件ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十八條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第九十五條 左ニ掲グル事件ハ北海道廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村規則ヲ設定スル事

二 使用料手数料ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 道廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

四 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡買入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

五 各種ノ保證ヲ興フル事

六 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事

七 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第九編 北海道二級町村制

第九編 北海道二級町村制

八 第七十二條第七十三條ニ依リ町村住民ノ一部若クハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

第九十六條 左ニ掲グル事件郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 町村有不動産ノ賣却交換讓渡並買入書入ヲ爲ス事
 - 二 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
 - 三 第七十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事
- 第九十七條 北海道廳長官郡長ハ町村長書記部長委員其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ北海道廳長官ノ懲戒處分ハ隨責二十五圓以下ノ過怠金解職トシ郡長ノ懲戒處分ハ隨責及十圓以下ノ過怠金トス

第八章 附則

第九十八條 此ノ勅令施行時期ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

第九十九條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ二級町村ト爲ス地ハ「拓殖務大臣」之ヲ指定ス

第一百條 此ノ勅令ニ依リ初メテ議員ヲ選舉スルニ付町村會ノ職務ハ町村長之ヲ行フヘシ

第一百一條 此ノ勅令ヲ施行スル島嶼其ノ他特別ノ事情アル地ニ就テハ其ノ町村吏員監督官廳ノ職務

權限等ニ關シ「拓殖務大臣」ニ於テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第一百二條 此ノ勅令ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依ル但シ現役軍人ヲ除ク

第一百三條 現役及豫備役ノ屯田兵村ニハ此ノ勅令ヲ施行セス

第一百四條 屯田兵土地給與規則及屯田兵移住給與規則ニ依リ給與シタル公有ノ財産ニ關シテハ屯田

兵服役期限中及其ノ滿期ノ年ヨリ十箇年間ハ此ノ勅令ヲ適用セス

第一百五條 此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ「拓殖務大臣」及大藏大臣之ヲ告示ス

第一百六條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ「拓殖務大臣」之ヲ定ム

● 沖繩縣區制 (二十九年勅令第十九號)

第一章 總則

第一款 區及其ノ區域

第一條 此ノ勅令ハ沖繩縣ニ於テ區ト爲ス地ニ行フモノトス

第二條 區ハ郡ノ區域ニ屬セス且ニ行政區置トス但シ法律命令ニ依リ特ニ區ノ區域ト符合セサル行政

區置ヲ設クルコトヲ妨ケス

區ハ法人トシ法律命令ヲ以テ定メタル範圍内ニ於ケル公共事務並從來法律命令若クハ慣例ニ依リ又

ハ將來法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ之ヲ處理スルモノトス

第三條 區ヲ變シテ郡内ノ間切ト爲シ又ハ郡内ノ間切ヲ變シテ區ト爲スコトヲ要スルトキハ内務大臣

之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ郡ノ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

區ノ境界ヲ變更シ又ハ郡内ノ間切ヲ區ニ合併シ又ハ區ノ區域ヲ分割スルコトヲ要スルトキハ内務大

臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ郡ノ境界ニ涉ルモノアルトキハ郡ノ境界モ亦自

ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ關係アル會議ノ意見ヲ聞キ沖繩縣知事之ヲ定ム

區ノ境界明ナラサルコトアルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第九編 沖繩縣區制

第九編 沖繩縣區制

第二款 區住民及其ノ權利義務

第四條 區内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ區住民トス

區住民タル者ハ此ノ勅令ニ從ヒ區有財產並區ノ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ及區ノ負擔ヲ分任スル

義務ヲ有スルモノトス但シ特ニ民法上ノ權利義務ヲ有スル者アルトキハ此ノ限ニアラス

第五條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)區ノ住民トナリ(二)區ノ負擔ヲ分任シ及

(三)區内ニ於テ土地ヲ所有シ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ區公民トス但シ公費ヲ以テ

貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項二年ノ制限ハ場合ニ依リ區會ノ議決ヲ經テ沖繩縣知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ特免スルコトヲ得

此ノ勅令ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一月ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ云フ

區公民ニシテ相當ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ又ハ無任期ノ職務ヲ少クトモ三

年間擔當セス又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサル者ニ對スル處分規則ハ內務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニ

ハ區會ノ議決ニ依リ六年以内區公民タル權ヲ停止シ場合ニ依リ同年期間他ノ住民ノ負擔スヘキ區稅

ノ率ニ比シ四分ノ一以下ヲ增加スル規程ヲ設クルコトヲ得

第六條 區公民タル者前條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ公民タル權ヲ失フモノトス區公民タル者

公權停止中若クハ租稅滯納處分中ハ公民タル權ヲ停止ス家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

ハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキハ

其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ區ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ク

ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

第三款 區條例及區規則

第七條 區ハ住民ノ權利義務及區ノ事務ニ關シ此ノ勅令中文ナク又ハ條例ヲ以テ特例ヲ設クルコト

ヲ許シ若クハ規定スルコトヲ要スル事項ニ付テハ條例ヲ設クルコトヲ得

區ハ區有財產及區ノ營造物ニ關スル事項其ノ他此ノ勅令中規則ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ許シ若ク

ハ規定スルコトヲ要スル事項ニ付テハ規則ヲ設クルコトヲ得

區條例及區規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス

區條例及區規則ヲ發行スルニハ地方所定ノ公告式ニ依ル其ノ公告式ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二章 區行政

第一款 區吏員ノ組織及選任

第八條 區ニ區長區書記ノ外必要ノ附屬員ヲ置ク

附屬員ハ有給吏員トシ區長之ヲ任免ス

第九條 區ニ收入役一名ヲ置キ區書記ノ中ニ就キ沖繩縣知事之ヲ命ス

收入役ハ身元保證ノ爲金圓若クハ物件ヲ差出スヘシ

第十條 區ハ處務便宜ノ爲區規則ヲ以テ區ノ區域ヲ數部ニ分チ每部部長及其ノ代理者各一名ヲ置クコ

トヲ得

部長及其ノ代理者ハ名譽職トス

部長及其ノ代理者ハ選舉權ヲ有スル區公民ノ中ニ就キ區長之ヲ任免ス

第九編 沖繩縣區制

第十一條 區ハ區規則ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
委員ハ名譽職トス

委員ハ區會議員若クハ區公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充テ又ハ區會議員及區公民中選舉權ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ合議體ニ組織シタル場合ニ於テハ區長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル區書記ヲ以テ委員長トス

委員ハ區會ニ於テ之ヲ組織ス

委員ノ組織任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ規則ニ之ヲ規定スヘシ

委員ニ關シテハ第四十五條ノ例ヲ適用ス

委員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲豫審ニ付セラレタルトキハ沖繩縣知事ハ其ノ職ヲ停止スルコトヲ得

第二款 區長區書記及區吏員ノ職務權限

第十二條 區長ハ區ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

區長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 區會ノ議事ヲ準備並其ノ議決ヲ承認シ及執行スル事
- 二 區有財産及區ノ營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
- 三 區ノ權利ヲ保護スル事
- 四 區ノ歳入ヲ管理シ歳入出豫算其ノ他區會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

五 區吏員ヲ監督シ委員ヲ除ク外其ノ他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其ノ懲戒處分ハ隨責及十圓以下ノ過怠金トス

六 區ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七 外部ニ對シテ區ヲ代表シ及區ノ名義ヲ以テ他廳若クハ一個人ト交渉スル事

八 法律命令若クハ區會ノ議決ニ依リ使用料加入金手数料區稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九 區條例及區規則ヲ設定スル事

十 區營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十一 收入役及區吏員ノ身元保證ヲ徵シ並ニ其額ヲ定ムル事

十二 其ノ他法律命令若クハ上司ノ指令ニ依テ區長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第十三條 區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決其ノ權限ヲ越ヘ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ若クハ取消スヘシ
前項再議ニ付スルモ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ區長ヨリ沖繩縣知事ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ
又前項取消ニ不服アル區會ハ沖繩縣知事ニ訴願スルコトヲ得

前項沖繩縣知事ノ決定若クハ裁決ニ不服アル區會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ

前項再議ニ付スルモ仍其ノ決議ヲ改メサルトキハ區長ヨリ沖繩縣知事ニ申立テ其ノ決定ヲ請フヘシ
其ノ沖繩縣知事ノ決定ニ不服アル區會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ決定若クハ裁決其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ該當官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 區會ニ於テ必要ノ收支ニ關シ否決シタルトキ又ハ區長若クハ監督官廳ニ於テ區會ノ議決必要ノ收支ニ關シ不當ノ削減ヲ爲スト認ムルトキハ區長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指令ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ沖繩縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル區會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
本條ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス但シ當該官廳ニ於テ停止ノ爲ニ公益ニ害アリト認ムルトキハ此ノ限リニ在ラス

第十五條 區會招集ニ應セス若クハ成立セサルトキハ區長ハ沖繩縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

區會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス若クハ議了セサルトキハ前項ニ依ル第一項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ

第十六條 第五十二條但書若クハ第五十四條第二項ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十七條 區書記ハ區長ノ命令ヲ承ケ區ノ行政ニ係ル庶務ニ従事ス
區長故障アルトキハ上席書記區ノ行政ニ付其ノ職務ヲ代理ス

區長ハ區書記ヲシテ區ノ行政事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十八條 收入役ハ區ノ收入ヲ受領シ其ノ費用ノ支拂ヲ爲シ其ノ他會計事務ヲ掌ル

第十九條 部長及其ノ代理者ハ區長ノ命令ヲ承ケ部内ニ關スル國ノ行政及區ノ行政ニ付區長ノ事務ヲ補助執行ス

第二十條 委員ハ區長ノ監督ニ屬シ區有財產若クハ區ノ營造物ヲ管理シ其ノ他區行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

委員ノ職務權限ニ關スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第二十一條 區役所ノ處務規程ハ沖繩縣知事之ヲ定メ其ノ他區吏員ノ處務規程ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ區長之ヲ定ム

第三款 給料及給與

第二十二條 名譽職吏員ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

部長及其ノ代理者並委員ニハ實費辨償ノ外區會ノ議決ヲ經テ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得
實費辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ區會ノ議決ヲ經テ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ區規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
區條例ヲ以テ有給吏員ノ退職料及遺族扶助料ヲ設クルコトヲ得

第二十四條 有給吏員ノ給料旅費退職料遺族扶助料其ノ他第二十二條ノ給與ニ關シ異議アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ區沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第二十五條 給料旅費退職料遺族扶助料報酬辨償等ハ區ノ負擔トス但シ給料旅費ニ限り當分國庫ヨリ支給ス

第三章 區會

第一款 組織及選舉

第二十六條 區會議員ハ區ノ選舉人其ノ被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其ノ定員ハ三十人以下トシ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第二十七條 區公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者及第六條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

直接區稅ヲ納ムル者其ノ額區公民ノ最多ク直接稅ヲ納ムル三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ區住民ニ非サル者又ハ二年以來ノ區住民ニ非サル者ト雖第五條ニ掲載スル其ノ他ノ要件ヲ具備スルトキハ選舉權ヲ有ス但シ第六條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 選舉人ハ分テ三級トス

選舉人中直接區稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス

一級選舉人ヲ除ク外直接區稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ區内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年長者ヲ以テシ

年齡ニモ依リ難キトキハ區長自ラ抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人每級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス其ノ被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラサルモノトス

第二十九條 沖繩縣知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ内務大臣ノ許可ヲ得テ選舉區ヲ設クルコトヲ得

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

選舉人ハ住居ヲ占ムル地ニ依テ所屬ノ選舉區ヲ定ム其ノ區内ニ住居ヲ占メサル者ハ直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亙リ賦課ヲ受ケタル物件アルトキハ稅額ノ最多キ物ノ所在ニ依テ之ヲ定ム又直接區稅ノ賦課ヲ受ケタル物件ナキトキハ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル地ニ依テ之ヲ定ムヘシ但シ本文ノ場合ニ於テ稅額ノ相同キトキ又ハ數選舉區ニ亙リ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルトキハ本人ノ申出ニ依テ之ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ各選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ被選舉人ハ其選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス

第三十條 選舉權ヲ有スル區公民ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス

- 一 沖繩縣ノ官吏
- 二 區長區書記及有給ノ區吏員
- 三 檢事及警察區吏
- 四 神官僧侶其ノ他諸宗教師

第九編 沖繩縣區制

五 小學校教員

其ノ他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ケヘシ
父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數
ニ依テ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ同數ナレハ年長者ヲ當選トシ同年ナレハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム其ノ
時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

區長トノ間父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ區會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故
アル者區長ノ任命ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フモノトス

第三十一條 區會議員ハ名譽職トス其ノ任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ
議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退職セシム初回ニ於テ退職セシムヘキ者ハ抽籤ヲ以
テ之ヲ定ム

前項議員ノ任期ハ總選舉ヲ行ヒタル日選舉ノ日數ニ互ル又ハ定期改選期日選舉ノ數日ニ互ルヨリ起
算シ層ニ從フ但シ總選舉ノ場合ニ於テ一部ノ議員後レテ選舉セラレ又ハ定期改選ノ場合ニ於テ一部
若クハ全部ノ議員其ノ期日後ニ選舉セララルコトアルモ先ニ總選舉ヲ行ヒタル日又ハ定期改選期日
ヨリ起算ス

退職ノ議員ハ再選セララルコトヲ得

議員ニ關シテハ第三十二條第一項第三項第二十四條第二十五條ノ例ヲ適用ス

第三十二條 議會議員中議員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ若定員
三分ノ一以上議員アルトキ又ハ區長若クハ區會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖補

補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フヘシ

第三十三條 區長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其ノ選舉前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記
載セル選舉原簿ヲ調製シ此ノ原簿ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ每選舉
各別ニ原簿及名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ハ其ノ選舉前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間區役所ニ於テ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若
關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期限内ニ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ區長其ノ申
立ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項區長ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判
所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議、訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分、決定若クハ裁決ノ執行ヲ停止セス

區長ハ第二項異議ノ決定又ハ第三項訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ
選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登録セサル者ハ何人タリトモ選舉ヲ行フコ
トヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ選舉ヲ行フトキモ亦之ヲ適用ス
但シ名簿確定後訴願ノ裁決若クハ訴訟ノ判決ニ依リ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ日ヨリ五日前ニ修正
スヘキモノトス

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第三十四條 選舉ヲ行フトキハ區長ハ選舉ノ日ヨリ少クモ七日前ニ選舉ノ場所日時並毎選舉區及每級ヨリ選舉スヘキ議員ノ員數ヲ公告スヘシ

各級ニ於テ選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第三十五條 選舉掛ハ名譽職トシ區長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ區長若クハ其ノ代理者ハ掛長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス但シ選舉區ヲ設クルトキハ每選舉區各別ニ選舉掛ヲ設クヘシ

第三十六條 選舉開會中ハ選舉人ヲ除ク外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉人ハ選舉會場ニ於テ協議若クハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名又ハ其ノ住所氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ之ヲ掛長ニ差出スヘシ但シ選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

區住民ニ非スシテ第二十七條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル獨立ノ男子ニ限ル但シ一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス又代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示スヘシ

選舉人投票ヲ差出トキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入スヘシ但シ投票函ハ投票ヲ終ルマテ之ヲ開クコトヲ得ス

第三十八條 單名投票ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ無効トス連名投票ニシテ第一號第五號第六號ニ該當スルモノモ亦同シ又連名投票ニシテ第二號乃至第四號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 氏名ヲ記載セサルモノ

二 記載シタル氏名ノ讀ミ難キモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ住所氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ位階敬稱ノ類ヲ記入スルハ此ノ限ニ在ラス

六 投票用紙ヲ一定シタル場合ニ於テ其ノ用紙ヲ用非サルモノ

投票ニ記載ノ人員其選舉スヘキ定數ヲ過クルトキハ末尾ニ記載シタルモノヲ順次ニ棄却スヘシ

投票受理効力ニ關スル事項ハ選舉掛之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ區長之ヲ決ス

第三十九條 區會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ區長自ラ抽籤シテ其ノ當選ヲ定ム

同時ニ補關議員數名ヲ選舉スルトキハ投票數ノ多キ者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補關ト爲シ投票ノ數相同キトキハ區長自ラ抽籤シテ其ノ順序ヲ定ム

第四十條 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其ノ他關係書類ヲ合綴シテ選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ署名捺印シ少クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

投票ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ取纏メ封緘ノ上選舉掛長選舉掛ノ一名若クハ數名ト共ニ之ニ捺印シ少

クトモ六年間之ヲ保存スヘシ

第四十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉掛長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ其ノ當選ヲ辭セシトスル者ハ當選ノ告知ヲ發シタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ區長ニ申立ツヘシ
一人ニシテ數級若クハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ當選ノ告知ヲ最終ニ發シタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ區長ニ申立ツヘシ其ノ期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタル者ト看做スヘシ
定期改選ト補闕選舉トナ同時ニ行ハタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ兩選舉ニ當リタルトキモ亦前項ノ例ヲ適用ス

本條ニ依リ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
選舉ヲ終リ當選者定マリタルトキハ區長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ公告シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ之ヲ沖繩縣知事ニ報告スヘシ

第四十二條 選舉人選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
沖繩縣知事ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス前條ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ選舉ヲ取消スヘシ
前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
本條ノ訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第四十三條 選舉ノ規程ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トシ又當選者中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ當選ヲ無効トスヘキモノトス但シ選舉ノ規程ニ違背スル所アルモ其ノ事ノ輕微ニシテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
第四十四條 選舉若クハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ
第四十五條 區會議員中其ノ資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス
區長若クハ區會ニ於テ前項ニ該當スル者アルコトヲ發見シタルトキハ沖繩縣知事ニ申立ツヘシ
第一項資格要件ノ有無ハ沖繩縣知事ニ於テ前項ノ申立ニ依リ又ハ其ノ職權ヲ以テ之ヲ決定ス
前項沖繩縣知事ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
本條ノ場合ニ於テ資格要件ヲ有セストスル決定ハ其ノ決定確定シ又ハ訴訟ノ判決アルマテ其ノ執行ヲ停止ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十六條 區會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料加入金手数料區稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
- 三 區有不動産ノ賣買交換讓受讓渡並賃入書入ヲ爲ス事
- 四 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
- 五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 六 區有財産ノ管理方法ヲ定ムル事
- 七 區ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

其ノ他區會ノ權利ハ法律命令ノ定ムル所ニ依ル

第四十七條 區會ハ區長ノ報告書ヲ請求シテ區有財産ノ管理或收入支出ノ正否ヲ検査スルコトヲ得
區會ハ前項ノ目的ノ爲ニ五名以下ノ委員ヲ議員中ヨリ選舉シ區長又ハ其ノ指命シタル官吏若クハ吏員立會ノ上關係書類或金庫ヲ檢閲セシムルコトヲ得

區會ハ區ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ區長若クハ監督官廳ニ差出スコトヲ得
區會ハ區長若クハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

第四十八條 議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第四十九條 區會ハ區長ヲ以テ議長トス若シ區長故障アルトキハ其ノ委仕ヲ受ケタル區書記ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條 區長及其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ハ何時ニテモ會議ニ出席シ及發言スルコトヲ得但シ議員ノ演說ヲ中止スルコトヲ得ス

前項ノ出席者ハ議員ノ職ニ在ル者ヲ除ク外議決ニ加ハルコトヲ得ス

第五十一條 區會ハ會議ノ必要アル毎ニ區長會期ヲ定メテ之ヲ召集ス議員四分ノ一以上ヨリ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキモ亦同シ

召集或會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除ク外少クトモ會議ノ三日前タルヘシ

區會ハ區長之ヲ開閉ス

第五十二條 區會ハ議員定員ノ半数出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付集會再回ニ至ルモ議員仍半数ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 區會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若クハ其ノ父母妻子兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ區會ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

前項除席ノ爲ニ議員ノ數減少シテ會議ヲ開ク定數ニ滿タサルトキモ仍會議ヲ開クコトヲ得

第五十五條 區會ノ會議ハ公開ス但シ議長ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第五十六條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十七條 會議傍聴ノ紀律或取締ニ關スル規則ハ内務大臣之ヲ定ム其ノ規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過意金ヲ科スル規程ヲ設ケルコトヲ得

第五十八條 前條ニ依リ内務大臣ノ定ムル規則ノ外區會ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ會議規則及傍聴規則ヲ設ケヘシ其ノ會議規則ニハ之ニ違背シタル議員ニ對シ區會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過意金ヲ科スル規程ヲ設ケルコトヲ得

區會ニ於テ行フ選舉ノ方法ハ會議規則ニ之ヲ規定スヘキモノトス

第五十九條 區會ノ書記ハ區書記及附屬員ノ中ニ就キ區長之ヲ命ス

書記ハ區長ニ隸屬シテ庶務ニ従事ス

議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ製シテ會議ノ顔末或出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二名以上之ニ署名捺印スヘキモノトス

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ區長ニ報告スヘシ

第九編 沖繩縣區制

第四章 區ノ財務

第一款 區有財産及區稅

第六十條 區ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ
臨時ニ收入シタル金穀等ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ム
ルモノハ此ノ限ニ在ラス

區ハ區規則ノ規程ニ依リ或ル事業ノ爲ニ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得此ノ場
合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ前項收入ノ一部若クハ全部ヲ特別ノ基本財産若クハ積立金穀等ニ加入
スルコトヲ得但シ寄附金穀等寄附者別ニ其ノ使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十一條 區有財産ハ其ノ收益ヲ以テ區ノ收入ト爲スカ爲ニ管理スルモノトス但シ區ノ直接ノ公用
若クハ區住民ノ直接ノ共用ニ供シタル區有財産ニシテ其ノ公用若クハ共用ニ妨アルトキ及ヒ特ニ民
法上ノ權利ヲ有スル者アル場合ニ於テ其ノ權利ニ牴觸スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 區有財産ヲ區住民ノ全部若クハ一部ノ直接ノ公用ニ供スルニハ區規則ノ規程ニ依ルヘシ
前項ノ規則ニハ使用料ノ外場合ニ依リ加入金徴收ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第六十三條 區有財産ノ賣却貸與又ハ區ノ工事及物件調達ノ請負ハ公ノ入札ニ付スヘシ但シ臨時急施
ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額入札ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ區會ノ承諾ヲ得ルトキハ
此ノ限ニ在ラス

第六十四條 區ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ得テ國區其ノ他公共團體若クハ一個人ノ事業ニ對シ寄附若クハ
補助ヲ爲スコトヲ得

第六十五條 區ハ其ノ必要ナル支出及法律命令ニ依リ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ
區ハ區有財産ヨリ生スル收入使用料手数料過忘金其ノ他法律命令ニ依リ區ニ屬スル收入ヲ以テ前項
ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ區稅及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第六十六條 區ハ區有財産若クハ區ノ營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付使用料又
ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第六十七條 區稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキ目左ノ如シ
一 國稅ノ附加稅
二 直接若クハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ區ノ全部ニ賦課スルヲ常例トス
特別稅ハ別ニ區限リ稅目ヲ設ケ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課スルモノトス

第六十八條 此ノ勅令中別ニ規程アルモノヲ除ク外特別稅ニ關スル細則ハ區條例又使用料手数料ニ關
スル細則ハ區規則ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

附加稅徴收ノ方法ハ區條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第六十九條 區住民ニ非スト雖三箇月以上區内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ハ其ノ住居ヲ構ヘタル
初若クハ滞在ノ初ニ遡リ區稅ヲ納ムル義務アルモノトス
區住民ニ非ス又三箇月以上區内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スルコトナキ者ト雖區内ニ於テ土地家屋ヲ
所有シ若クハ使用シ又ハ區内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ區内ニ於テ或ル行爲ヲ爲ス者ハ
土地家屋營業若クハ其ノ所得ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル區稅ヲ納ムル義務アルモノトス其ノ

法人タルトキモ亦同シ但シ官業ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條 所得稅ノ附加稅ヲ賦課シ及區ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課スルトキハ納稅義務者ノ區外ニ於テ所有シ若クハ使用スル土地家屋又ハ區外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除スヘキモノトス

數市區町村間切ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在スル者ニ前項ノ區稅ヲ賦課スルトハ其ノ所得ヲ各市區町村間切ニ平分シ其ノ一部分ニノミ課稅スヘシ但シ土地家屋又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ニ對シテハ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
國區其ノ他公共團體ノ直接ノ公用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ國區其ノ他公共團體ニ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

社寺ノ用ニ供シ又ハ官立公立ノ學校病院ノ用ニ供シ又ハ官其ノ他公共ノ施設ニ係リ學藝美術慈善ノ用ニ供スル土地家屋營造物ニ對シテハ社寺又ハ國區其ノ他公共團體ニ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
國有ノ山林若クハ荒蕪地ニ對シテハ國ニ區稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

本條ノ外區稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ
皇族ニ係ル區稅ノ賦課ハ道テ法律勅令ヲ以テ定ムルマテ現今ノ例ニ依ル
第七十二條 區有財產ヲ區住民ノ一部ノ直接ノ供用ニ供シタル場合ニ於テハ其ノ使用權ヲ有スル者ヲシテ使用ノ多寡ニ準シテ其ノ財產ニ係ル必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七十三條 區住民ノ一部ノミチ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得
得區ノ一部ノミチ利スル營造物ノ建設維持ノ費用ハ其ノ部内ニ住居ヲ構ヘ若クハ滞在シ又ハ其ノ部内ニ於テ土地家屋ヲ所有シ若クハ使用シ又ハ其ノ部内ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ其ノ部内ニ於テ或ル行爲ヲ爲スニ依リ區稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得但シ其ノ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

第七十四條 區ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ以テ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術手工ニ關スル勞役ヲ賦課スルコトヲ得ス

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外直接區稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ
夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七十五條 區ニ於テ徵收スル使用料加入金手数料區稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他區ノ公法上ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ區長ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ處分スヘシ其ノ督促及手数料ニ關シテハ區規則ヲ以テ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

納稅義務者中無資力ナル者アルトキハ區長ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ニ於テハ區會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵還付期滿免除及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル一般ノ例ヲ適用ス

第七十六條 區稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ其ノ課目課額ニ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後三箇月以内ニ區長ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

區有財產若クハ區ノ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ區長ニ申立ツルコトヲ得

本條ノ異議ハ區長之ヲ決定ス其ノ區長ノ決定ニ不服アル者ハ沖繩縣知事ニ訴願シ其ノ沖繩縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ異議訴願若クハ訴訟ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第七十七條 區ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ天災事變等已ムヲ得サル支出若クハ區ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ區住民ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限り區債ヲ起スコトヲ得

區債ヲ起スニ付區會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘキモノトス其ノ變更ヲ要スルトキモ亦同シ

區債償還ノ初期ハ起債ノ時ヨリ三年以内ト爲シ年年ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ常例トス

區債ノ總額ハ毎年ノ利子額其ノ區經常支出既往三年起債ノ都度其ノ前平均額ノ四分一ヲ超過セサルヲ限度ス

區ハ債券ヲ發行スルコトヲ得ス

豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其ノ年度ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經ヘシ

第二款 區ノ歳入出豫算及決算

第七十八條 區長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ歳入出豫算ヲ調製シ少クトモ年度二箇月前ニ區會ノ議決ヲ經ヘシ但シ區ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ區會ニ提出スルトキハ區長ハ併セテ區ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第七十九條 區長ハ必要ノ場合ニ於テハ區會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若クハ更正ヲ爲ナスコトヲ得

第八十條 豫算外ノ支出若クハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ但シ區會ノ否決シタル費目ニ充ツルコトヲ得ス

豫備費ノ支出ハ後日區會ノ認定ヲ求ムルコトヲ要ス

區ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ區會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

區ハ區規則ヲ以テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

豫算調製ノ式並費目流用ニ關スル規程ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

豫算ハ區會ノ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ沖繩縣知事ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ其ノ要領ヲ公告スヘシ

第八十一條 豫算ノ議決ヲ經タルトキハ區長ヨリ其ノ勝手ヲ收入役ニ交付スヘシ其ノ豫算中監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事故アルトキハ先ツ其ノ許可ヲ受クヘシ

收入役ハ區長ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス區長ノ命令ヲ受クルモ其ノ支出豫算中豫定ヲキカ又ハ其ノ命令前條第一項ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規程ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第八十二條 區ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査ヲ行ヒ又毎年少クトモ一回臨時検査ヲ行フヘシ

検査ハ區長若クハ其ノ代理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ區會ノ選舉シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第八十三條 區ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ以テ期限トス
決算ハ出納閉鎖期限後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ區長ニ提出スヘシ區長ハ之ヲ審
査シ意見ヲ附シ次ノ通常豫算會議ニ於テ之ヲ區會ニ報告スヘシ
區長ハ決算報告書及之ニ關スル區會ノ議決ヲ沖繩縣知事ニ報告シ並地方所定ノ公告式ニ依リ決算ノ
要領ヲ公告スヘシ

第五章 區内一部ノ行政

第八十四條 區内ノ一部ニシテ所有財産若クハ營造物ニ付其ノ部限リ特ニ其ノ費用ヲ負擔スルトキハ
沖繩縣知事ハ區會ノ意見ヲ聞キ内務大臣ノ許可ヲ得テ財産營造物ニ關スル事務ノ爲部會ヲ設クルコ
トヲ得

前項部會ノ組織選舉職務權限處務規程等ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第八十五條 前條ニ記載スル事務ニ付此ノ勅令ノ規程ニ依リ難キ事項其ノ他部ニ關シ特ニ必要ナル事
項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ沖繩縣知事之ヲ定ム

第六章 區行政ノ監督

第八十六條 區行政ハ第一次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第八十七條 此ノ勅令ニ規定スル異議訴願若クハ訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若クハ裁決書ヲ交付シ
タル日ヨリ二十一日以内ニ提起スヘシ但シ此ノ勅令中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 監督官廳ハ區行政ノ法律命令ニ背反セサルヤ其ノ事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ
監督官廳ハ之カ爲ニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事

務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル權ヲ有ス

監督官廳ハ區行政ヲ監督スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲ス權ヲ有ス

内務大臣ハ沖繩縣知事ノ區行政ニ關シテ爲シタル命令若クハ處分ヲ停止シ若クハ取消スコトヲ得

第八十九條 沖繩縣知事ハ區ノ豫算中不適當ノ支出ト認ムモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得其ノ
支出ヲ削減シタル場合ニ於テハ之ニ相當スル收入ヲ削減スヘシ

前項沖繩縣知事ノ處分ニ不服アル區會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第九十條 區會ノ解散ハ内務大臣之ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

沖繩縣知事ハ十日以内ニ於テ區會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 區條例ノ設定ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十二條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 區債ヲ起シ並借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但シ第七十七條末項
ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ若クハ變更スル事

三 直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

五 國庫ヨリ直接ニ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事

第九十三條 左ニ掲グル事件ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九編 沖繩縣區制

- 一 區規則ヲ設定スル事
 - 二 使用料手数料ヲ新設シ若クハ變更スル事
 - 三 縣廳ヨリ交付スル補助金ニ對シ支出金額ヲ定メ若クハ變更スル事
 - 四 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物件ノ賣却交換讓渡質入書入若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
 - 五 區有不動產ノ賣却交換讓渡質入書入ヲ爲ス事
 - 六 基本財産及積立金穀等ノ處分ヲ爲ス事
 - 七 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 八 繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事
 - 九 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
 - 十 第七十二條第七十三條ニ依リ區住民ノ一部若クハ區内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事
 - 十一 第七十四條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事
- 第九十四條 沖繩縣知事ハ部長委員其ノ他區吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フ其ノ懲戒處分ハ體費二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
- 前項解職ノ處分ハ職務ニ違背シ若クハ職務ヲ曠廢スル者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者ニ對シテ之ヲ行フモノトス
- 隨時解職スルコトヲ得サル吏員ニシテ第一項解職ノ處分ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得其ノ訴願ノ爲ニ處分ノ執行ヲ停止セス

第七章 附則

- 第九十五條 此ノ勅令施行ノ時期ハ內務大臣之ヲ定ム
- 第九十六條 此ノ勅令ヲ施行スル場合ニ於テ初メテ區ト爲ス地ハ那覇首里ノ各區域トス
- 第九十七條 此ノ勅令ニ於テ直接稅若クハ間接稅トスヘキ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス
- 第九十八條 此ノ附則ニ規定スルモノヲ除ク外此ノ勅令施行ニ付必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

● 沖繩縣間切島規程 (三十一年勅令第三百五十二號)

- 第一條 間切島ハ法人トシ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並法律命令又ハ慣例ニ依リ間切島ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス
- 第二條 間切島吏員ノ組織任免職務權限及處務規定等ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第三條 間切島會ノ組織選舉職務權限處務規定及間切島長ト間切島會トノ權利義務ノ關係並間切島會ノ監督ニ關スル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム
- 第四條 間切島有財産及營造物ノ管理ニ關スル事項ハ法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム
- 第五條 間切島ハ其ノ必要ナル費用及法律命令又ハ慣例ニ依リ間切島ノ負擔ニ關スル費用ヲ支辨スル義務アリ
- 前項ノ費用ハ間切島稅其ノ他間切島ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第六條 從來賦課シタル間切島公費ハ間切島稅夫役現品トシテ之ヲ存ス
- 間切島稅ヲ新設シ若ハ廢止變更セムトスルトキハ間切島長ハ間切島會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九編 沖繩縣間切島規程

第七條 間切島稅夫役現品ノ賦課徵收ニ關シテハ從來ノ例ニ由ル前項ノ賦課徵收方法ヲ變更シ若ハ新ニ賦課徵收ノ方法ヲ設ケ若ハ變更スルトキハ間切島長ハ間切島會ノ議決ヲ經沖繩縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第八條 間切島稅夫役現品ニ代フル金圓其ノ他間切島ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ間切島長ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第九條 間切島ハ負債ヲ起スコトヲ得本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、還付、期滿免除及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル例ニ依ル

第十條 間切島ノ負債ニ關スル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム

第十一條 間切島ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第十二條 間切島歲入出豫算及決算ニ關スル事項ハ沖繩縣知事之ヲ定ム

第十三條 間切島内一部ノ財產又ハ營造物ニ關シテハ法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外間切島有財產又ハ間切島ノ營造物ニ關スル例ニ依リ間切島長之ヲ管理スヘシ但シ其ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第十四條 間切島内一部ノ財產又ハ營造物ニ關スル事務ノ爲當該郡長島司ハ沖繩縣知事ノ許可ヲ經特ニ村會ヲ設クルコトヲ得

第十五條 村會ノ組織選舉職務權限處務規定及其ノ監督等ニ關スル事項ニ付テハ沖繩縣知事ニ於テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外間切島會ニ關スル規定ヲ準用ス

第十六條 數間切島ノ事務ヲ共同處辨スル爲間切島組合ヲ設クルコトヲ得

第十七條 間切島組合ニ關スル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事之ヲ定ム

第十八條 間切島行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第十九條 宮古郡八重山郡ニ於ケル間切行政ハ第一次ニ於テ沖繩縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第二十條 監督官廳ハ間切島行政ヲ監督スル爲必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第二十一條 間切島長又ハ間切收入役故障アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ沖繩縣知事ハ間切島ノ費用ヲ以テ官吏ヲ派遣シ間切島長又ハ間切島收入役ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第二十二條 此ノ勅令ニ規定スルモノヲ除ク外間切島ノ行政ニ關シ必要ナル事項ハ內務大臣ノ許可ヲ經沖繩縣知事別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十三條 此ノ勅令ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

附則

第二十四條 此ノ勅令ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

水道條例 (二十三年法律第九號)

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地貯水地濾水場及唧水場水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第九編 水道條例

第九編 水道條例

二四三

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 第一 水道事務所ノ所在地
- 第二 水源ノ位置ノ別其周圍ノ概況及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ
- 第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地濾水場唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ
- 第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量
- 第五 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込
- 第六 水壓ノ概算
- 第七 工事方法
- 第八 起工竣竣工期限
- 第九 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
- 第十 水料ノ等級價格水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算
- 第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ
- 第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス
- 第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
- 第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之

カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

- 第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ
 - 第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
 - 第十一條 家屋ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス
 - 第十二條 市町村ノ水道掛午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證券ヲ携帯スヘシ
 - 第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之ヲ修繕ヲ爲サシムヘシ
 - 第十四條 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徵收スルコトヲ得
 - 第十五條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ
 - 第十六條 市町村ハ一家專用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノ、爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
 - 第十七條 市町村ハ消防用ノ爲ニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徵收スヘカラス
- 水道組合條例 (二十三年法律第四十六號)
- 第一章 總則
- 第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ渉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町

第九編 水利組合條例

二四三

第九編 水利組合條例

二四四

村組合事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一 普通水利組合

二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ用悪水等専ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニ堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサル

モノ、爲設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ内務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員ト

ス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ情願ニハ市町村ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出

ヘシ

第十條 第八條情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合

關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府

縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半

數ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長

ニ告示スヘシ

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ

於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了

スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區

域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノ

ハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモ

第九編 水利組合條例

二四五

ノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總議會ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルトキ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘキ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受、或賃入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行收入支出ノ正否ヲ監査スルトコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ効力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルトコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルトコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルトコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ハ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ

招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遅クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條 組合會ノ議決ハ過半數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設クス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ

充ルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村内ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ市數町村又ハ郡市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムルヘシ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ
第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事
- 二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其決議ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フヘシ郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條 管理者ハ將ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結ビ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬職員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ職員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ職員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ會計

第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限り之ヲ賦課スヘシ

第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年據置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十七條 組合豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設ケルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組

第九編 水利組合條例

第九編 水利組合條例

合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設ルコトヲ得

第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ

年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條 管理者ハ毎會計年度ノ歳入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十三條 歳入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ終了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長

ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノ、外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ

涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合ノ區域ニ府縣以上ニ涉ル場合ニ於テハ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ

例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徵收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條 水利組合會ハ内務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條 監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視シ

第九編 水利組合條例

兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ立實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得
組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徴スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却交換讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケヘシ
組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲メ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シテ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選舉セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ管理者ノ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域內ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從事セシメ及必要ナル現品ヲ收川スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條 水利組合管理者及其事務ニ服從スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第二百二十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第二百二十九條ヲ適用ス

第七章 附則

第五十五條 府縣參事會郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之

ヲ施行ス

●東京市區改正條例 (二十一年勅令第六十二號)

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ内務大臣ニ具申スヘシ内務大臣ハ審査ノ上内閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部内ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一 地租割 地租同額以內但耕地ヲ除ク

一 營業稅並雜種稅 地方稅十分ノ四以內

一 家屋稅 同上

一 清酒 區内ニ輸入又ハ區内ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五十錢以內

內

第四條 特別稅滯納者ハ租稅滯納處分法ニ依テ處分ス

第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部ノ基本財産トシテ即今官用ニ供セサル東京府區部

内ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條 市區改正ノ經費及特別稅賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシム

第七條 第三條第五條ノ收入合計ハ毎年度三十萬圓ヨリ少ナカラス五十萬圓ヨリ多カラサルモノトス但毎年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額ニ合算スルコトヲ得ス

第八條 (二十三年勅令第六十六號) 十九號ヲ以テ削除

第九條 東京府知事ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテ一周年度トナシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條 東京府知事ハ一周年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府區部會ニ報告シ然ル後内務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十一條 年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルトキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議定ヲ取り内務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府區部會ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條 市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府區部ハ毎年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以内ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 市區改正ニ關スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ

第十四條 市區改正ノ事務ハ東京府知事其執行ノ責ニ任スヘシ

第十五條 市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

●東京市區改正ニ關スル事務引續方 (二十三年勅令第七十號)

第一條 東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區内清酒輸入規則ノ規定ニ依リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京府市部會ニ屬スルモノハ東京市會ニ之ヲ屬セシム

第二條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財産トシテ下付シタル河岸地ハ之ヲ東京市ニ引續ケヘシ

第三條 明治二十三年度東京市區改正ノ收支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京市ニ於テ之ヲ存續スシ

●東京市區改正土地建物處分規則 (二十二年勅令第五號)

第一條 市區改正ニ要スル官有地ハ無料ニテ供用セシメ其地ニ屬スル官有ノ建物植物等ハ無料ニテ交付スヘシ但地方稅ノ經濟ニ屬スルモノハ民有ニ準ス

民有地及其地ニ屬スル民有ノ建物植物又ハ官有地ニ在ル民有ノ建物植物等ハ東京府知事其所有者ト協議ノ上相當ノ代價又ハ移轉料ヲ償却スヘシ

若シ協議調ハサルトキハ雙方ヨリ評價人各一人ヲ出シ評價セシメ東京府知事之ニ意見ヲ付シ内務大臣ノ決ヲ請ヒ之ヲ定ムヘシ

第二條 市區改正ノ爲メ民有地買上ノ場合ニ於テ一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘餘ヲ生スルモノハ併セテ之ヲ買上クヘシ

第三條 市區改正ニ關シ不川ニ歸シタ土地一宅地ヲ爲スニ足ルモノニシテ邊ニ公川土地買上規則又ハ本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ舊所有者ニ拂下ヘシ若シ舊所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルカ又ハ舊所有者ナキモノハ直ニ公賣ニ付スヘシ

前項ノ土地一宅地ヲ爲スニ足ラサルモノハ其接續地ノ所有者之ヲ買受クヘキモノトス若シ其所有者之ヲ買受ルコトヲ欲セサルトキハ東京府知事ハ第一條ニ依リ其接續地及建物植物等ヲ買上クヘシ

前條及本條ニ一宅地ト稱スルモノハ市街ノ狀況ニ依リ東京府知事之ヲ定ム

第四條 東京府知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受ク市區改正ニ要スル土地ニ屬スル建物新築増築改築ノ制限ヲ規定シ之ヲ告示スヘシ

其制限内ト雖モ新築増築改築セント欲スル者ハ豫メ東京府知事ノ認可ヲ受ヘシ東京府知事ハ設計着手ノ都合ニ依リ認可セサルコトヲ得

若シ之ヲ認可セサルトキハ新築増築改築者ハ其土地及其地ニ屬スル建物植物等ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

第九編 東京市區改正委員會組織權限

前項ノ場合ニ於テ其土地自己ノ所有ニアラサルトキハ通知ヲ以テ其土地賃借ノ契約ヲ解クコトヲ得

若シ制限ニ違ヒ又ハ東京府知事ノ認可ヲ受ケスシテ新築増築改築ヲナシタル者ハ土地買上ノ際其新築増築改築ニ係ル建物ノ代價又ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得ス

第五條 土地建物植物等ノ賣却代金ハ市區改正ノ費用ニ充ツヘシ

●東京市區改正委員會組織權限 (二十九年勅令第七十九號)

第一條 東京市區改正委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 委員長 一人
- 委員
 - 内務省高等官 三人
 - 大藏省高等官 二人
 - 陸軍省高等官 二人
 - 海軍省高等官 一人
 - 農商務省高等官 一人
 - 逓信省高等官 二人
 - 警視廳高等官 一人
 - 東京府高等官 一人
 - 東京市吏員 一人

東京市參事會員 二人

東京市會議員 十人

臨時委員 若干人

警視總監及東京府知事及東京市長ハ定員ノ外委員トシテ會議ニ列席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得 (三十一年勅令第二百五十號ヲ以テ改正)

第二條 委員長、高等官及東京市吏員ヨリ出ツル委員並臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

東京市參事會員ヨリ出ツル委員ハ市參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

東京市會議員ヨリ出ツル委員ハ市會ニ於テ之ヲ選定ス但シ市會議員ヨリ出ツル委員總テ關員ニ屬シ市會ニ於テ補闕選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ名譽職參事會員中ヨリ互選ヲ以テ之ニ充ツ

第二項及第三項ノ委員確定シタルトキハ東京市參事會ハ内務大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ(同上)

第三條 委員長ハ會務ヲ掌理シ議事ヲ整頓ス

委員長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第四條 委員會ハ東京市區改正ノ設計及毎年度ニ於テ施行スヘキ事業其ノ他設計ニ關シ必要ナル事項ヲ議定ス

委員會ニ於テ議定シタル事項ハ其ノ都度内務大臣ニ報告スヘシ

第五條 委員會ノ議事規則ハ議會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九編 東京市區改正委員會組織權限

第九編 地方税規則

第六條 會議ハ過半数ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ可否スル所ニ依ル

第七條 委員會ニ幹事一人書記若干人ヲ置ク

幹事ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命シ書記ハ委員長之ヲ命ス

幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記ハ委員長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第八條 委員長委員及幹事ニハ一箇年五百圓以内臨時委員ニハ事件ノ輕重ニ應シ相當ノ手當ヲ給スル

コトヲ得

書記ニハ一箇月五十圓以内ノ給料ヲ給スルコト得

第九條 技術又ハ學術ニ涉リ其ノ他特ニ調査ヲ要スル場合ニ於テハ委員長ハ委員ノ外何人ト雖其ノ調

査ヲ囑託シ相當ノ報酬ヲ與フルコトヲ得

第十條 委員長ハ委員中ヨリ五名以内ヲ選ミ常務委員ト爲シ會議ニ提出スルハキ議案ニ就キ豫メ審査ヲ

爲サシムルコトヲ得

第十一條 委員會ハ市區改正ニ關スル事項ニ付各省大臣ノ諮詢ニ應シ又ハ各省大臣ニ建議シ又ハ各廳

ニ照會往復スルコトヲ得

第十二條 委員會ハ市區改正事業ノ實施ニ方リ委員ヲ派遣シテ之ヲ檢察セシメ設計ニ違フモノアレハ

東京市參事會ニ照會シテ其ノ改正ヲ要求シ時宜ニ依リ内務大臣ニ且狀スルコトヲ得

●地方税規則 (十三年第十六號布告)

第一條 地方税ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 地租三分ノ一以内(十三年第四十八號布告) 告ヲ以テ本項改正

一 營業税并雜種税

一 戶數割

第二條 營業税雜種税ノ種類ハ列段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム(十五年第二號布告ヲ以テ及制限ノ三字ヲ刪ル)

第三條 地方税ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ(十五年第二號布告) 告ヲ以テ各項共改正

一 警察費

一 警察廳舎建築修繕費

一 土木費

一 區町村土木補助費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費

一 教育費

一 區町村教育補助費

一 郡區廳舎建築修繕費

一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費(十六年第七號布告ヲ以テ郡區長ノ給料旅費ハ國庫ノ支辨トス)

一 教育費

一 「浦役場」及難破船諸費(二十一年法律第一號ヲ以テ浦役場費ハ市町村ノ負擔トス)

一 諸送書及揭示諸費

一 勸業費

第九編 地方税規則

第九編 地方稅規則

- 一 月長以下給料旅費(十七年第十三號布)
告ヲ以テ本項改正
 - 一 地方稅取扱費府縣廳ニ屬スル爲替方給料爲
替手數料現金遞送等ノ費用
 - 一 府縣廳舍建築修繕費
 - 一 府縣監獄費
 - 一 府縣監獄建築修繕費
 - 一 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス
 - 一 豫備費豫算外ニ生シタル事件ノ費途(十五年第六十九號布)
及豫算ノ臨時不足ニ充ル者(告ヲ以テ本項改正)
- 右ノ特外ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ議決ヲ經テ府知事(縣令)ヨリ「内務大藏兩卿」ニ具狀シ
政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事(縣令)ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨ス
ヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以
テ「内務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十七年第二十九號布)
地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ナ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ
定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事(縣令)ヨリ「内務卿」ニ具狀シ認可ヲ得テ其年期間之ヲ施行スルヲ得
(十五年第六十九號布)
(告ヲ以テ本項追加)

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議
決ヲ取リ「内務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十四年第五號布)告ヲ以テ報告スヘシ
(十四年第五號布)告ヲ以テ報告スヘシ(十五年第六十九號布)
(告ヲ以テ本項追加)

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムテ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアルトキハ府知事(縣令)
令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得(十五年第十九號布)
(告ヲ以テ本項追加)

- 第六條 地方稅徵收ノ收期ハ府知事(縣令)適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 府知事(縣令)ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初ニ於テ之ヲ
府縣會ニ報告シ然ル後「内務卿」及「大藏卿」ニ報告スヘシ(十四年第五號布)
(告ヲ以テ改正)
- 第八條 (十四年第五號布)
(告ヲ以テ刪除)
- 第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府知事(縣令)ヨリ「内務卿」ニ具狀シ其裁定ヲ得
テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得
- 第十條 (十三年第二十六號布)告ヲ以テ追加
(十四年第八號布)告ヲ以テ刪除

●營業稅雜種稅規則 (十三年第十七號布告)

明治十一年十二月第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條此旨布告
候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス(十五年第三號布告)
ナ以テ各項共改正

- 商業
- 工業
- 第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ(十五年第三號布告)
ナ以テ各項共改正
- 料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類

湯屋
理髮人
傭人受宿

遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場 玉突大弓楊弓
射的吹矢ノ類

人寄席

船解漁船川船及 馬車人力車荷積馬車荷積大七六
五十石未満海船 八車荷積中小車荷積牛車ノ類

(二十九年法律第六十
五號ニ依リ但書消滅)

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又ハ新稅ヲ賦課
セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ
受クヘシ

第三條 (十五年第三號布
告ヲ以テ刪除)

第四條 府知事「縣令」ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取捨スルコトヲ
得

第五條 府知事「縣令」ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ視察シ府會縣ノ決議ヲ以テ各個ノ稅額ヲ査定スヘ
シ(十五年第三號布告ヲ以テ決議ヲ
以テノ下稅額云々ノ八字ヲ刪除)

第六條 (十五年第三號布
告ヲ以テ刪除)

第七條 (十五年第三號布
告ヲ以テ刪除)

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事「縣令」ヨリ「內務大藏兩卿」ニ報告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事「縣令」
ヨリ「內務大藏兩卿」ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ(十五年第三號布告ヲ以テ第三條稅目
ノ五字ヲ改メ課稅種類ノ四字トナス)

●府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合 (二十一年勅令第六十一號)

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條 地方稅中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ

四トシ其他ノ府縣(沖繩縣ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

第二條 前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨ
リ支給ス

第三條 本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

第九編 府縣警察費ニ對シ國庫下渡金ノ割合

第九編 府縣委托金ヲ地方經濟ニ移ス

三六六

●府縣委托金ヲ地方稅經濟ニ移ス (二十三年勅令第六十六號)

第一條 從來府縣廳ニ存在スル府縣委托金及之ニ屬スル財產ハ明治二十三年三月三十一日ノ現況ヲ以テ其府縣ノ地方稅經濟ニ下付スヘシ

第二條 府縣委托金ニ關シ從前府縣知事ニ於テ契約シタルモノハ其契約ヲ繼續シ從前府縣知事ヨリ發シタル命令ハ之ヲ履行スヘシ府縣會ノ議決內務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之カ命令ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條 元金ハ務メテ之ヲ保存スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ內務大藏農商務三大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ支消スルコトヲ得ス

第四條 元金ヨリ生スル利子ハ府縣會ノ議決ニ依リ公共ノ勸業費途ニ充用シ又ハ之ヲ蓄積スルヲ得

第五條 府縣委托金中獻金又ハ寄附金等ヨリ成立ツモノニシテ當初使用ノ途ヲ指定シタルモノハ將來ト雖モ其使用ノ途ヲ變スルコトヲ得ス

第六條 府縣委托金ノ種類ハ大藏大臣之ヲ府縣ニ達スヘシ

●地方稅ニ關スル寄附及ヒ雜收入ハ府縣會ノ議定ニ付ス (二十年勅令第五十六號)

第一條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ費用ニ充ツヘシ

第二條 地方稅ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條 本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

●集治監ニ入ルヘキ囚徒并其費用區分 (十四年第十七號布告)

集治監ニ入ルヘキ囚徒并其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費用_{府縣}中_{府縣}費用_中並ニ_{府縣}費用_{トモ}ハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

●沖繩縣及小笠原島地方費支辦法 (二十三年法律第三十七號)

沖繩縣及小笠原島ノ地方經濟ニ屬スル費用ハ其地方人民ノ負擔スル處モノヲ除クノ外從前ノ通り國庫ヨリ之ヲ支辨ス

●府縣稅家屋稅ニ關スル件 (三十二年勅令第二百七十六號)

府縣ハ其ノ府縣ノ全部若ハ一部ノ地ニ於ケル家屋稅ニ對シ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

前項ニ依リ新ニ家屋稅ヲ賦課セントスルキハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

●府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項 (三十二年勅令第三百十五號)

第九編 府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項 二六七

左ニ掲グル事項ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス但シ郡ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 其ノ府縣郡ニ於テ從來徵收シタルモノト同種類ノ使用料手数料及其ノ細則ニ關スル件
- 二 其ノ府縣内ニ於ケル教育勸業衛生土木若ハ慈善ノ事業ニ對スル補助其ノ他其ノ府縣ニ於テ從來補助シタルモノト同種類ノ補助ニ關スル件

三 豫定價格五千圓未満ノ府縣有不動産處分ニ關スル件

四 其ノ府縣ニ於テ從來賦課シタルモノト同種類ノ夫役現品ノ賦課ニ關スル件

五 支出總額十萬圓以内ノ府縣總經費ニ關スル件

六 其ノ府縣ニ於テ從來設ケタルモノト同種類ノ特別會計ニ關スル件

七 府縣債ノ元本總額五萬圓郡債ノ元本總額千圓ニ達スルマテノ起債

八 地租二分ノ以下ノ附加税ノ賦課ニ關スル件

九 警察費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件

●府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件 (三十二年勅令第三百十六號)

第一條 府縣ハ臨時少額ノ費用ノ爲特ニ賦課徵收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ府縣内市町村二分賦スルコトヲ得

前項ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ム

第一項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設ケルヲ得

第二條 市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ヨリ徵收ス持別ノ分賦方法ヲ設ケルコトヲ得

第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●府縣稅徵收法 (二十三年法律第八十八號)

第一條 市町村ハ其市町村内ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アルモノトス

地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其市町村ニ交付スヘシ但東京市京都市大阪市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第三條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコトヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ交付スルコ

第九編 府縣稅徵收法

トテ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人及徵稅令書ヲ受ケタル市ノ各納稅人ハ稅金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス (二十八法律第三十一號ヲ以テ條中ヲ刪除ス)

市町村ハ其徵收シタル稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

第七條ニ依ル各納稅人ハ稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス 市町村長ハ納期限ヲ過キ稅金ヲ完納セサル者アルトキハ其滯納ノ稅目金額及滯納人ノ住所氏名ヲ記載シ之ヲ府縣出納吏ニ報告スヘシ (二十八法律第三十號ヲ以テ本項追加)

第九條 納稅人他ノ負擔ニ依リ強制執行ヲ受ケ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ (十八法律第三十一號ヲ以テ修正ス)

第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財産ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先チテ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅例ノニ依ル

第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲スヘキ職務ハ戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方稅ノ徵收ニ適用ス

第十五條 此法律ハ明治二十四年度所屬ノ徵稅ヨリ之ヲ施行ス (二十八法律第三十號ヲ以テ但書追加)

● 地方稅經濟ニ於テ臨時土木費ノ爲ニ起債及地租制限外賦課 (二十九法律第六十二號)

第一條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要シ地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得三十箇年以内ノ償還期限ヲ定メ公債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還ノ初期ハ三年以内トスヘシ

第二條 府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要スル場合ニ於テ府縣知事必要ナリト認ムルトキハ府縣會ノ議決ヲ取り内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ地租三分一ヲ超過スル地方稅ヲ土地ニ賦課スルコトヲ得

第三條 第一條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其ノ府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其ノ年度初現在高ノ三分一マテ借入ルルコトヲ得但シ本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ常置委員ヲシテ府縣會ニ代テ議決ヲ爲サシムルコトヲ得常置委員ハ其ノ議決ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第四條 第一條ノ認可ヲ得ムトスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル公債募集ノ方法又ハ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第九編 地方稅經濟ニ於テ臨時土木費ノ爲ニ起債及地租制限外賦課 二七一

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第六條 明治二十三年法律第三號及法律第七十四號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

● 罹災救助基金法 (三十二年法律第七十七號)

第一條 府縣ハ罹災救助基金ヲ貯蓄スヘシ

第二條 罹災救助基金ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル非常災害ニ罹リタル者ヲ救助スル爲メ支出スルモノトス

罹災ノ範圍前項ニ該當セサルモ多數ノ人民同一ノ災害ニ罹リタルトキ亦前項ニ同シ

第三條 各府縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金ノ最少額ハ五拾萬圓トシ且明治二十年度ヨリ同二十九年年度迄ノ間ニ備荒儲蓄法ニ依リ支給シタル平均年額ノ二十倍以上タルコトヲ要ス但シ支給額ノ最高

及低年度ハ本年平均計算ニ加ヘス

第四條 府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲メ直接國稅ノ附加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ他ノ法律ニ依ル制限

ノ外百分ノ三以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第五條 國庫ハ罹災救助基金ノ補助トシテ十箇年度間毎年拾五萬圓ヲ支出シ此ノ法律施行ノ日ニ於ケル府縣罹災救助基金第三條ノ制限額ニ達セサル府縣ニ對シ其ノ差額ニ割合ヒ之ヲ交付ス

前項ノ外國庫ハ罹災救助金ノ補助トシテ十箇年度間毎年拾五萬圓ヲ支出シ府縣ニ於テ府縣稅若ハ地方稅ヲ以テ罹災救助金ニ積立テタル金額ニ割合ヒ之ヲ交付ス但シ第三條ノ制限額ニ達シタル府縣

ニ付テハ此ノ限ニアラス

第六條 罹災救助基金ヨリ生スル收入ハ總テ罹災救助基金ニ編入スヘシ

第七條 第二條ノ支出額其ノ年度初ノ罹災救助基金現在高百ノ五ヲ超過シタルトキハ罹災救助基金ノ補助トシテ國庫ハ其ノ超過額ノ三分ノ一ヲ府縣ニ交付ス

第八條 罹災救助ノ爲メ基金ヲ支出スヘキ費目左ノ如シ

- 一 避難所費
- 二 食料費
- 三 被服費
- 四 治療費
- 五 小屋掛費
- 六 就業費

第九條 避難所費ハ罹災者ノ爲ニ必要ナル避難所ヲ設クル費用ニ充ツ

第十條 食料費ハ罹災者ノ爲ニ必要ナル焚出ヲ爲シ又ハ食品ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十一條 被服費ハ罹災者自ラ被服ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テ被服ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十二條 療費ハ災害ノ際罹災者ノ傷疾疾病ヲ治療スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ費用ニ充ツ

第十三條 小屋掛費ハ災害ノ際罹災者ノ爲ニ必要ナル小屋掛ヲ爲シ又ハ爲スヘキ材料ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十四條 就業者ハ主トシテ勞働ニ依リテ業務ニ従事シ價格僅少ナル資料又ハ器具ニ依頼スル貧民ニシテ罹災ノ爲其ノ資料又ハ器具ヲ亡失シタル者ニ就業ノ爲必要缺クヘカラサル資料又ハ器具ヲ給與スルノ費用ニ充ツ

第九編 罹災救助基金法

二七四

第十五條 第三條ノ制限額以上ニ達シタル府縣ノ郡市町村ニ於テ罹災救助ノ方法ヲ設ケ資金ヲ貯蓄スルトキハ地方長官ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケ該制限額ヲ下ルニ至ラサル範圍内ニ於テ罹災救助基金ヨリ補助スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ資金監督ノ方法ヲ設クヘシ

第十六條 罹災救助基金ノ管理支出又ハ補充ニ關スル方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 罹災救助基金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス

一 國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ非常災害ノ爲ニ要スル府縣土木費ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券買入額及土木費貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス其ノ土木費貸出ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二 豫メ給與品ヲ買入ルルコト

三 大藏省預金ニ預ケ入ルルコト

四 確買ナル銀行ニ利付ニテ當座預ケ定期預ケヲ爲スコト但シ罹災救助基金年度初ノ現在高十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 罹災救助基金ノ管理ニ關スル費用ハ罹災救助基金ヨリ支出スルコトヲ得ス

第十九條 罹災救助基金ノ出納ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ検査ス

第二十條 罹災救助基金ノ收支ニ關スル豫算及決算ハ内務大臣及大藏大臣ニ報告スヘシ

附則

第二十一條 此ノ法律ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ二十箇年度間之ヲ施行ス

第二十二條 備荒儲蓄法ニ依リ積立タル府縣儲蓄金ハ總テ罹災救助基金トス

第二十三條 此ノ法律ハ沖繩縣ニ施行セス

第二十四條 備荒儲蓄法ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●災害土木費國庫補助規定 (三十二年勅令第六十號)

第一條 府縣ノ災害土木費ニシテ其ノ地租年額ノ十分ノ三ヲ超過スルトキハ國庫ハ其ノ超過額ノ地租額ニ等シキ額ニ達スル迄ハ十分ノ四以内地租額ヲ超過スルトキハ其ノ超過ノ部分ニ對シテハ十分ノ五以内ヲ補助スルコトヲ得

第二條 三箇年以上引續キ地租額以上ノ災害土木費ヲ要スル災害アリタル府縣ニ對シテハ前條補助ノ

歩合ニ依リ算出シタル補助額ノ十分ノ三以内ヲ増加スルコトヲ得

第三條 前二條ノ地租額ハ其ノ年一月一日ニ於ケル土地臺帳面記載ノ地租額ニ依ル

第四條 災害土木費ノ範圍及計算方法並郡市町村其ノ他公共團體ノ災害土木費負擔ニ關スル方法等ハ内務大臣之ヲ定ム

●國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業監督ニ關スル規程

(三十年法律第三十七號)

第一條 府縣郡市町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

第九編 國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業監督ニ關スル規程 二七五